

伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

地上100cm
草地地表5cm
草地地上100cm
伊達総合支所
梁川総合支所
霊山総合支所
月舘総合支所
富成沼田地区
富成十区集会所
富成新若林団地
富成郵便局
岩代小国郵便局
大木バス停留所
末坂バス停留所
399号線飯舘村境
月舘相葭飯舘村境
坂ノ上集会所
八木平集会所

大柳柝窪地内
日向前団地
掛田上組集会所
相葭公民館

伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移（地上100cm）

	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
伊達総合支所	0.58	0.35	0.24	0.184	0.151	0.120	0.115	0.096	0.085	0.091	0.081
大柳柝窪地内		0.98	0.68	0.398	0.307	0.234	0.230	0.185	0.152	0.159	0.146
富成沼田地区	1.94	1.18	0.73	0.498	0.364	0.236	0.240	0.189	0.164	0.171	0.158
富成十区集会所	3.10	1.79	0.81	0.586	0.468	0.357	0.359	0.286	0.236	0.259	0.229
富成新若林団地内	2.17	1.40	0.54	0.348	0.287	0.226	0.226	0.175	0.149	0.159	0.148
富成郵便局	1.19	0.70	0.28	0.215	0.178	0.143	0.139	0.115	0.100	0.111	0.098
日向前団地		0.84	0.38	0.282	0.219	0.169	0.167	0.135	0.114	0.125	0.109
掛田上組集会所		0.75	0.44	0.333	0.267	0.208	0.207	0.165	0.135	0.143	0.134
霊山総合支所	1.05	0.56	0.28	0.206	0.161	0.128	0.127	0.102	0.088	0.096	0.089
岩代小国郵便局	1.37	0.74	0.31	0.239	0.195	0.155	0.157	0.129	0.105	0.113	0.103
大木バス停留所	0.97	0.51	0.28	0.207	0.169	0.119	0.121	0.103	0.090	0.098	0.091
末坂バス停留所	2.16	1.13	0.58	0.443	0.345	0.268	0.268	0.210	0.179	0.195	0.182
月舘総合支所	0.72	0.41	0.26	0.161	0.122	0.097	0.097	0.076	0.063	0.093	0.087
399号線飯舘村境	1.58	1.01	0.67	0.450	0.338	0.260	0.261	0.218	0.181	0.197	0.181
相葭公民館		1.20	0.73	0.533	0.348	0.270	0.272	0.221	0.192	0.210	0.193
月舘相葭飯舘村境	4.85	2.67	1.78	1.309	1.007	0.767	0.742	0.611	0.503	0.533	0.497
坂ノ上集会所	2.47	0.90	0.52	0.378	0.304	0.227	0.232	0.189	0.160	0.172	0.160
八木平バス停留所	1.40	0.68	0.38	0.271	0.211	0.162	0.161	0.128	0.110	0.115	0.107
梁川総合支所	0.47	0.29	0.21	0.168	0.142	0.116	0.122	0.105	0.093	0.107	0.099

伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移（草地地表5cm）

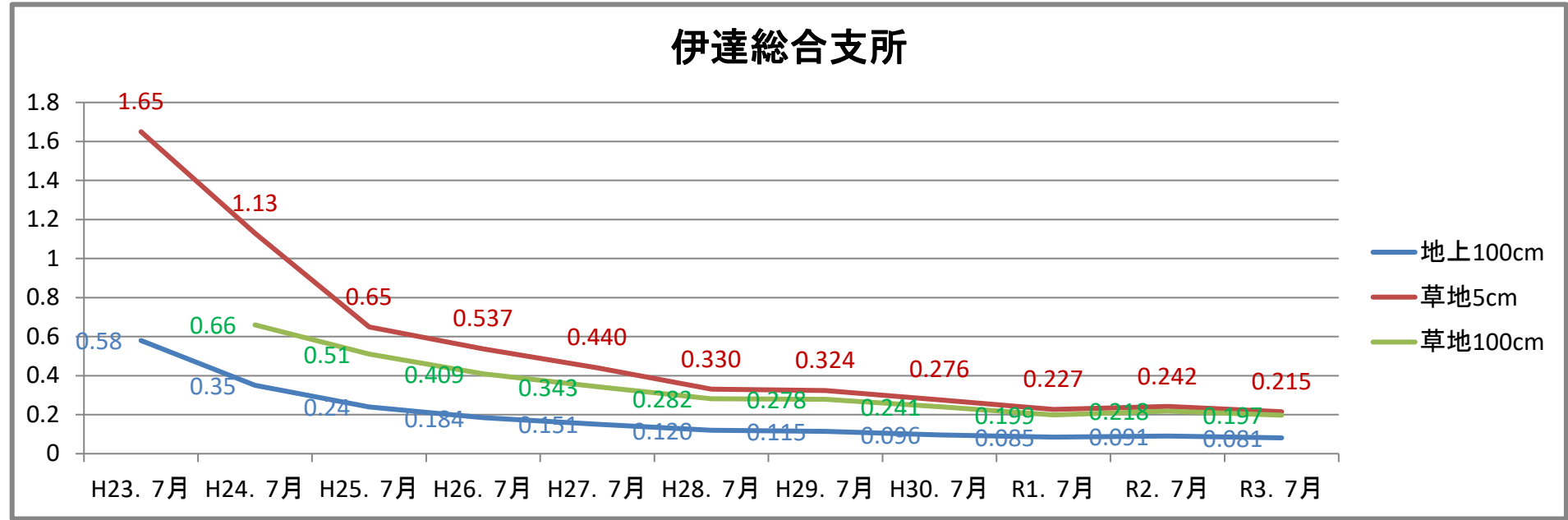
	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
伊達総合支所	1.65	1.13	0.65	0.537	0.440	0.330	0.324	0.276	0.227	0.242	0.215
大柳柝窪地内		1.98	1.37	0.452	0.319	0.253	0.262	0.219	0.183	0.196	0.191
富成沼田地区	3.68	2.26	1.26	0.892	0.654	0.225	0.225	0.182	0.155	0.165	0.151
富成十区集会所	5.34	2.68	0.53	0.419	0.348	0.270	0.276	0.227	0.191	0.203	0.189
富成新若林団地内	4.06	3.47	0.49	0.436	0.374	0.301	0.312	0.238	0.193	0.220	0.203
富成郵便局	2.64	1.75	0.40	0.357	0.260	0.214	0.250	0.194	0.186	0.191	0.170
日向前団地		2.77	0.36	0.305	0.172	0.143	0.154	0.117	0.107	0.121	0.103
掛田上組集会所		1.33	0.40	0.310	0.261	0.207	0.226	0.192	0.164	0.185	0.172
霊山総合支所	2.30	1.66	0.46	0.393	0.331	0.267	0.285	0.237	0.200	0.225	0.207
岩代小国郵便局	3.01	2.22	1.54	1.049	0.823	0.630	0.625	0.515	0.383	0.413	0.383
大木バス停留所	1.90	1.05	0.50	0.406	0.325	0.230	0.230	0.179	0.147	0.157	0.143
末坂バス停留所	6.12	2.58	0.78	0.636	0.514	0.405	0.434	0.362	0.302	0.342	0.318
月舘総合支所	1.26	0.80	0.65	0.372	0.318	0.261	0.280	0.231	0.173	0.145	0.158
399号線飯舘村境	2.87	1.99	0.53	0.402	0.311	0.240	0.249	0.206	0.175	0.195	0.184
相葭公民館		2.46	0.70	0.623	0.470	0.375	0.375	0.307	0.258	0.304	0.271
月舘相葭飯舘村境	13.45	8.86	6.25	6.165	5.089	3.997	3.760	3.047	2.327	2.548	2.279
坂ノ上集会所	4.74	0.69	0.46	0.337	0.276	0.215	0.219	0.181	0.155	0.172	0.168
八木平バス停留所	3.43	1.99	0.44	0.354	0.307	0.231	0.241	0.200	0.168	0.174	0.165
梁川総合支所	2.45	2.25	1.78	1.581	1.381	1.112	1.190	0.967	0.680	0.678	0.607

伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移（草地地上100cm）

	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
伊達総合支所		0.66	0.51	0.409	0.343	0.282	0.278	0.241	0.199	0.218	0.197
大柳柝窪地内		1.16	0.81	0.445	0.354	0.263	0.262	0.220	0.172	0.185	0.172
富成沼田地区		2.04	1.17	0.873	0.650	0.378	0.372	0.290	0.235	0.245	0.223
富成十区集会所		2.04	0.77	0.588	0.480	0.364	0.375	0.306	0.252	0.271	0.250
富成新若林団地内		1.88	0.45	0.336	0.295	0.236	0.241	0.168	0.135	0.150	0.137
富成郵便局		1.03	0.32	0.256	0.213	0.171	0.172	0.143	0.126	0.137	0.125
日向前団地		0.99	0.35	0.265	0.204	0.162	0.162	0.128	0.111	0.122	0.110
掛田上組集会所		0.80	0.38	0.296	0.242	0.196	0.204	0.165	0.139	0.149	0.139
霊山総合支所		1.00	0.39	0.308	0.255	0.202	0.206	0.170	0.145	0.159	0.150
岩代小国郵便局		1.60	1.17	0.905	0.711	0.557	0.569	0.463	0.329	0.356	0.321
大木バス停留所		0.85	0.39	0.308	0.240	0.174	0.175	0.144	0.122	0.133	0.124
末坂バス停留所		1.98	0.81	0.645	0.524	0.403	0.422	0.347	0.288	0.314	0.287
月舘総合支所		0.69	0.51	0.248	0.211	0.173	0.179	0.145	0.121	0.141	0.129
399号線飯舘村境		1.30	0.81	0.550	0.432	0.320	0.327	0.278	0.226	0.236	0.216
相葭公民館		1.85	0.72	0.567	0.433	0.330	0.343	0.283	0.239	0.258	0.234
月舘相葭飯舘村境		4.85	3.72	3.084	2.558	1.907	1.942	1.574	1.261	1.408	1.253
坂ノ上集会所		0.95	0.56	0.417	0.337	0.258	0.261	0.219	0.179	0.199	0.182
八木平バス停留所		1.51	0.55	0.444	0.375	0.277	0.283	0.236	0.200	0.194	0.174
梁川総合支所		0.45	0.33	0.252	0.207	0.166	0.172	0.141	0.117	0.127	0.116

伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
伊達総合支所	地上100cm	0.58	0.35	0.24	0.184	0.151	0.120	0.115	0.096	0.085	0.091	0.081
	草地5cm	1.65	1.13	0.65	0.537	0.440	0.330	0.324	0.276	0.227	0.242	0.215
	草地100cm	-	0.66	0.51	0.409	0.343	0.282	0.278	0.241	0.199	0.218	0.197



	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	86%	
B	草地5cm	87%	
C	草地100cm	70%	

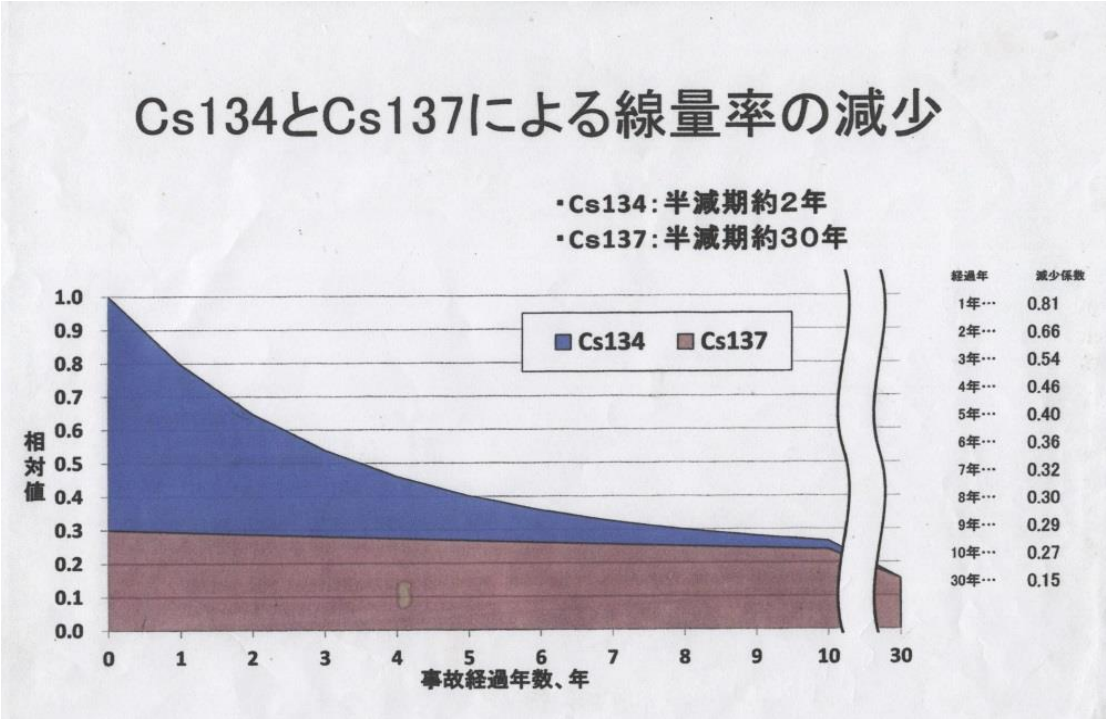
※C地点は平成24年7月からの減少率

定点測定地点は、コンクリート舗装の駐車場である。草地測定地点は、駐車場の南側花壇植込みの地表5cmと地上1mで測定。他所への流失も他所からの流入もほとんど見られない。積雪期の遮蔽効果も見られない地点である。

測定地点は、いずれも除染が行われていないので自然減衰のみの減少で推移している。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

伊達総合支所		H23. 3月事故発生時	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		0.58	0.35	0.24	0.184	0.151	0.120	0.115	0.096	0.085	0.091	0.081	0.07
	物理的減衰値			0.47	0.38	0.31	0.27	0.23	0.21	0.18	0.17	0.17	0.16	0.09



○物理的減衰値（理論値）の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

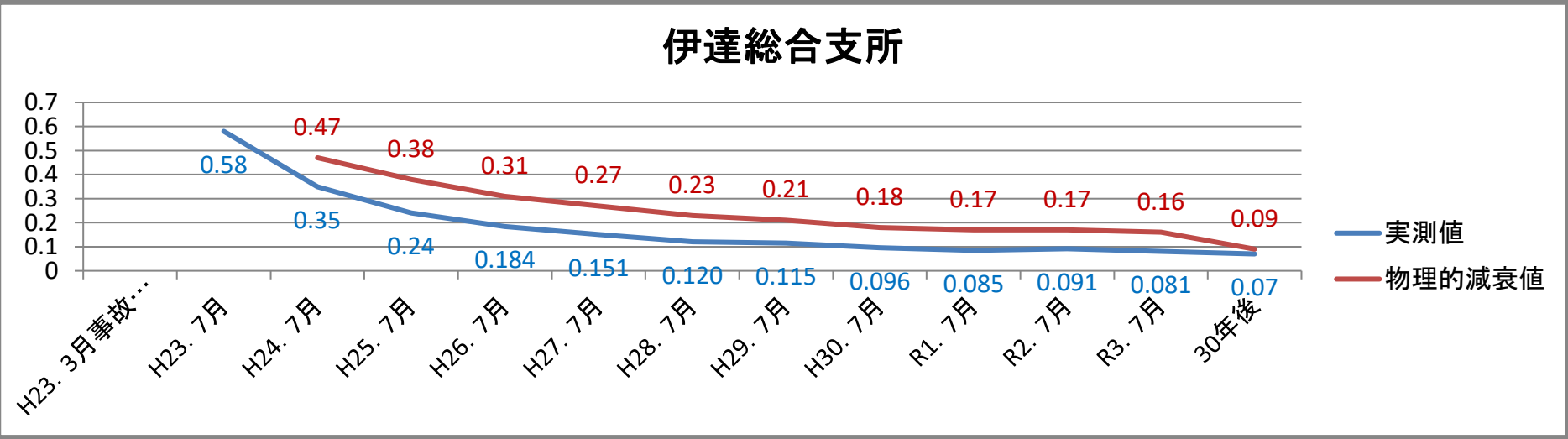
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
（参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと）

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

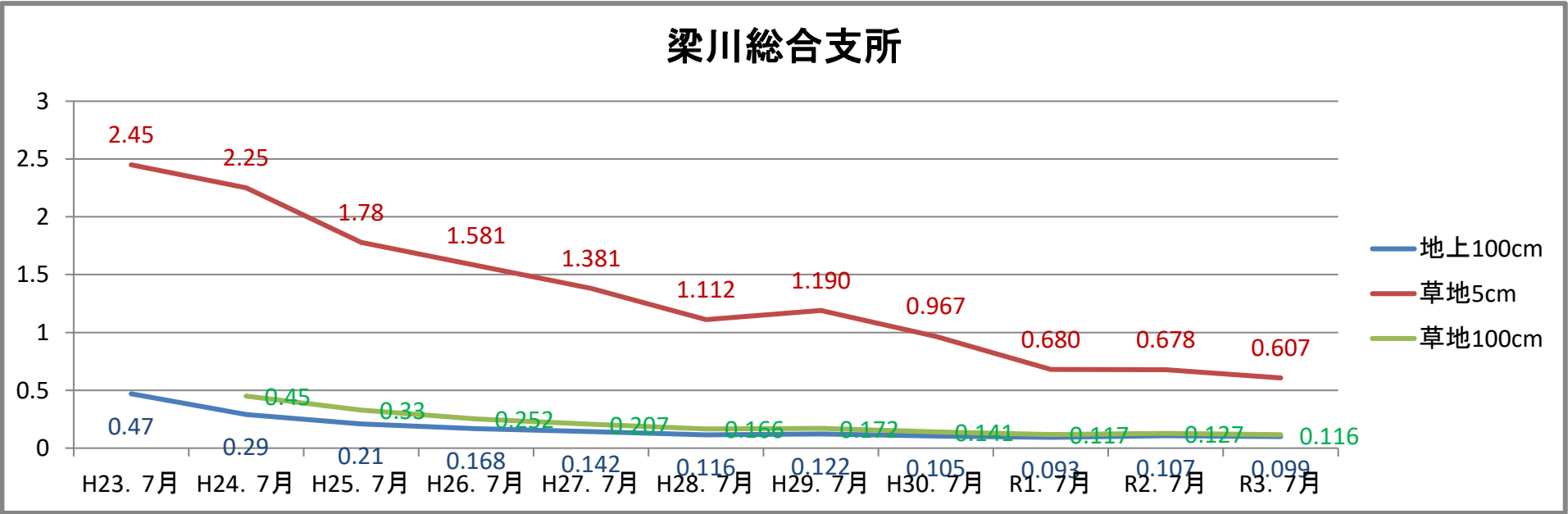
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.085	0.091	0.094	0.093	0.094	0.093	0.092

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.089	0.088	0.087	0.089	0.090	0.091	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
梁川総合支所	地上100cm	0.47	0.29	0.21	0.168	0.142	0.116	0.122	0.105	0.093	0.107	0.099
	草地5cm	2.45	2.25	1.78	1.581	1.381	1.112	1.190	0.967	0.680	0.678	0.607
	草地100cm		0.45	0.33	0.252	0.207	0.166	0.172	0.141	0.117	0.127	0.116



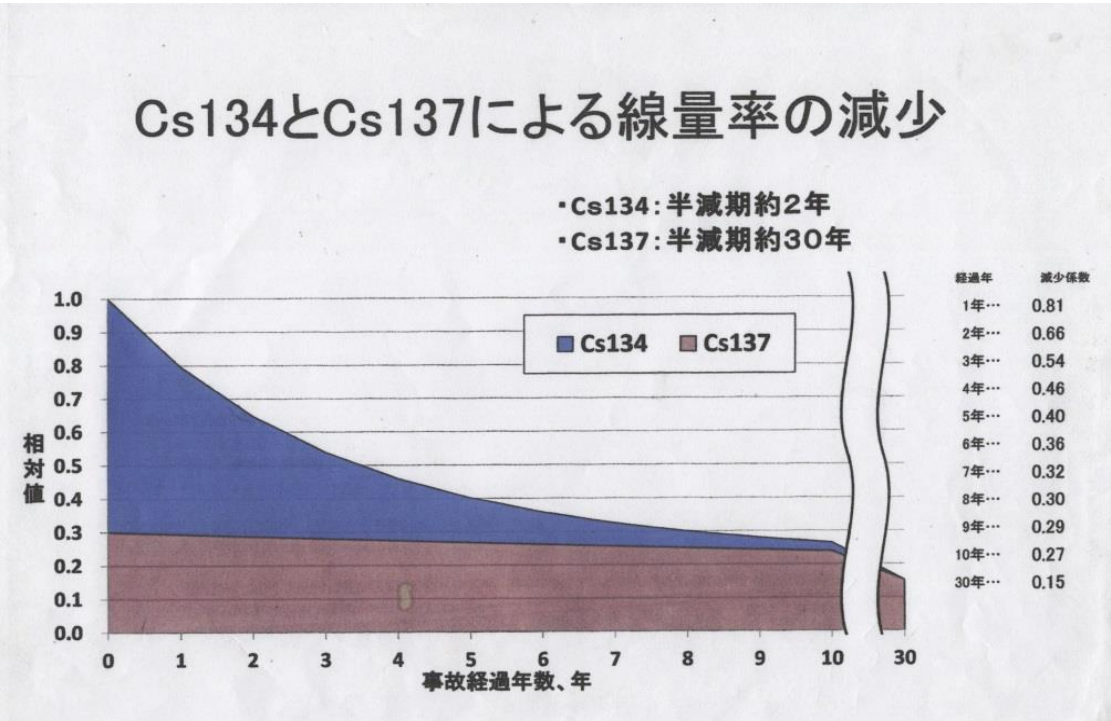
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	75%	
B	草地5cm	75%	
C	草地100cm	74%	

※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、花崗岩系の石畳で目地にわずかに土砂が溜まっている状態で、空間の線量を測定するには適していると考えられる。しかし、風の影響は受けやすい地点でもある。草地1mは道路傍の草地で、5cmはトウカエデの根元である。この測定値は極めて高く、測定当初は2.5 μ Svと5倍程度の高い数値を示していた。これは、放射性物質が降下して周囲の舗装された地点より雨水などが流入して土に吸着しているものと考えられる。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

梁川総合支所		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		0.47	0.29	0.21	0.168	0.142	0.116	0.122	0.105	0.093	0.107	0.099	0.08
	物理的減衰値			0.38	0.31	0.25	0.22	0.19	0.17	0.15	0.14	0.14	0.13	0.07



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

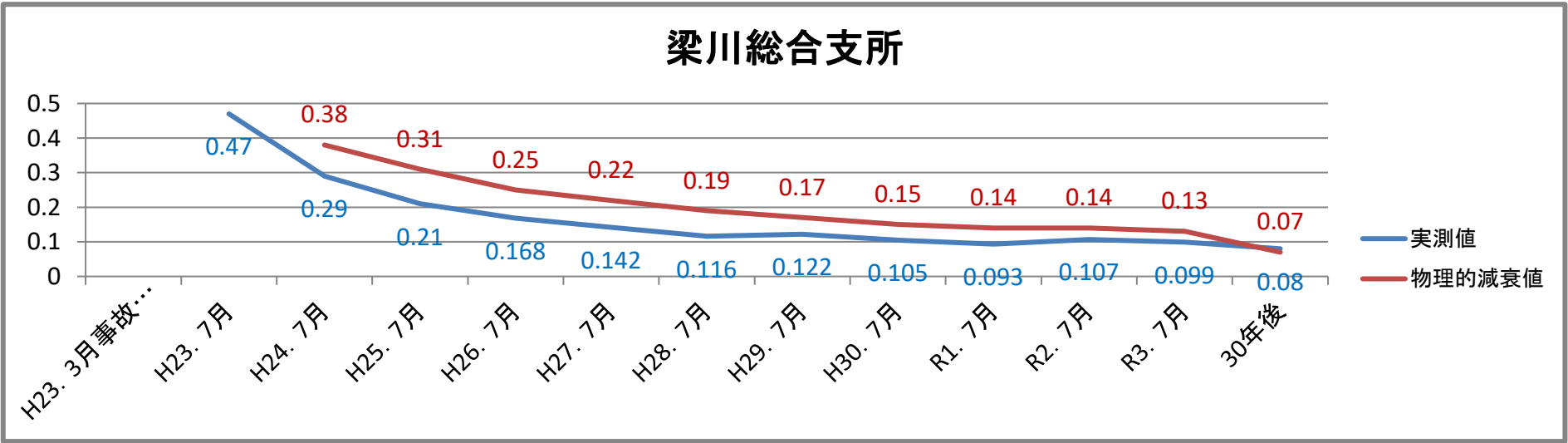
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02μSv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

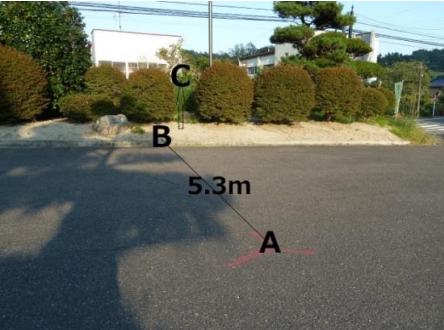
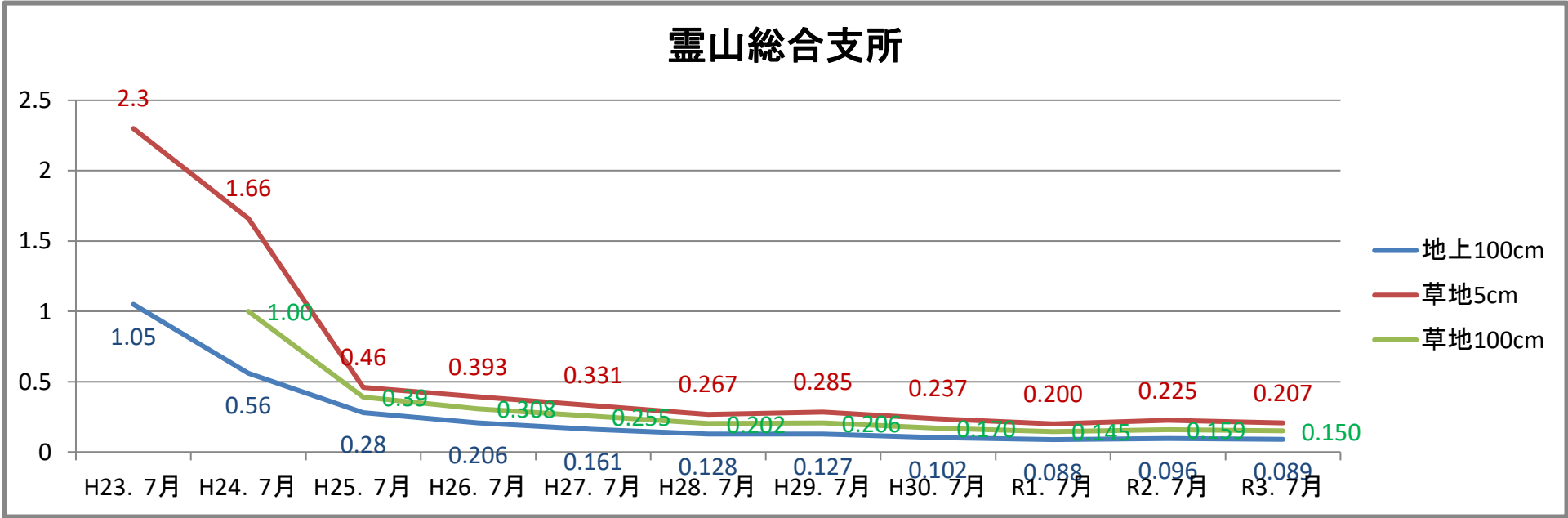
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.093	0.102	0.107	0.108	0.108	0.109	0.111

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.108	0.105	0.105	0.102	0.102	0.107	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
霊山総合支所	地上100cm	1.05	0.56	0.28	0.206	0.161	0.128	0.127	0.102	0.088	0.096	0.089
	草地5cm	2.3	1.66	0.46	0.393	0.331	0.267	0.285	0.237	0.200	0.225	0.207
	草地100cm		1.00	0.39	0.308	0.255	0.202	0.206	0.170	0.145	0.159	0.150



	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	92%	H25 .5月除染
B	草地5cm	91%	H25 .5月花壇表土入替
C	草地100cm	85%	

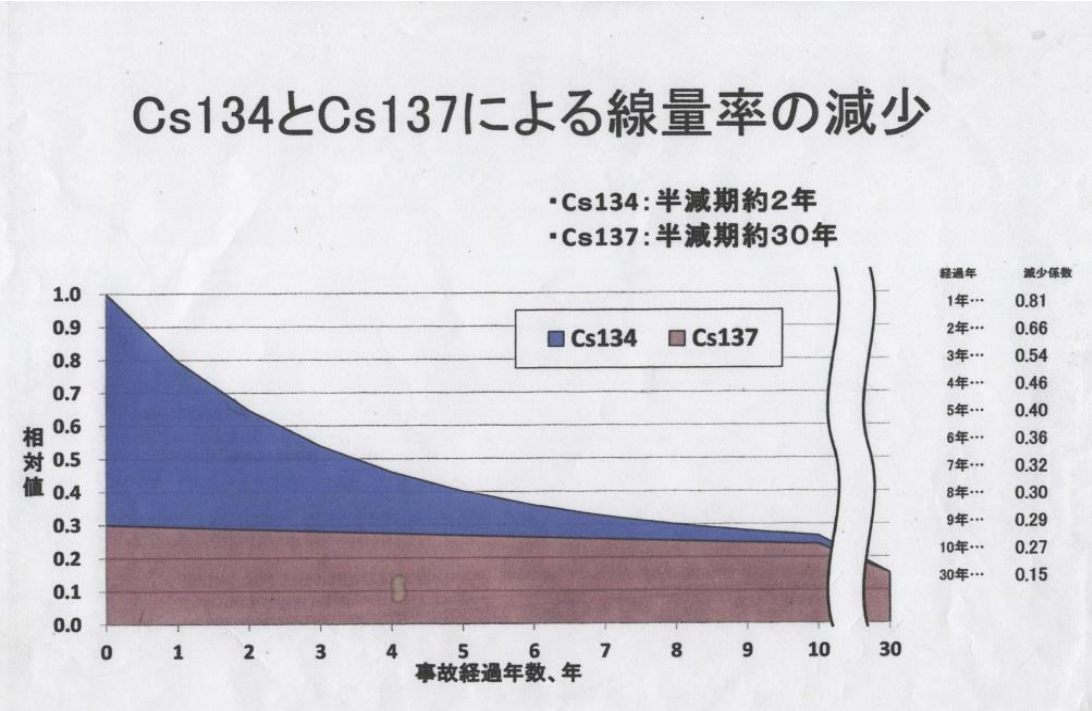
※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、コンクリート舗装の駐車場で緩やかな傾斜があり、降水の度に線量の変化が見られていたが、花壇の除染以来線量も低下し、以後自然減衰の範囲内で緩やかな減少が続いている。

25年5月の除染効果が見られ、大きく減少した。以後順調に低下傾向が続いている。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

霊山総合支所		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		1.05	0.56	0.28	0.206	0.161	0.128	0.127	0.102	0.088	0.096	0.089	0.08
	物理的減衰値			0.85	0.69	0.57	0.48	0.42	0.38	0.34	0.31	0.30	0.28	0.16



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

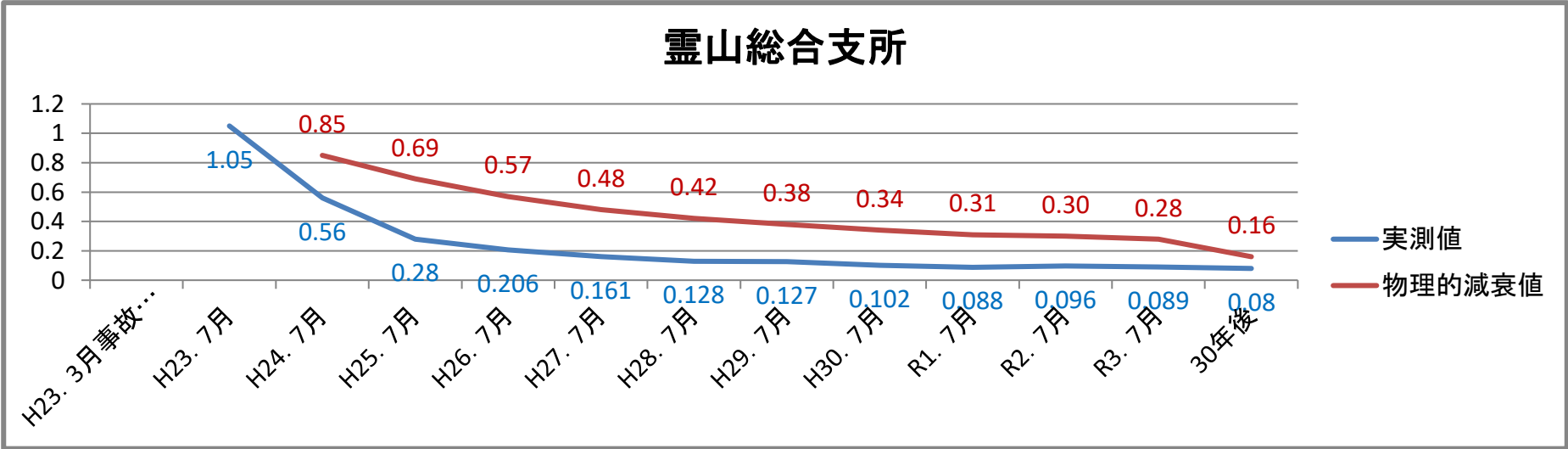
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

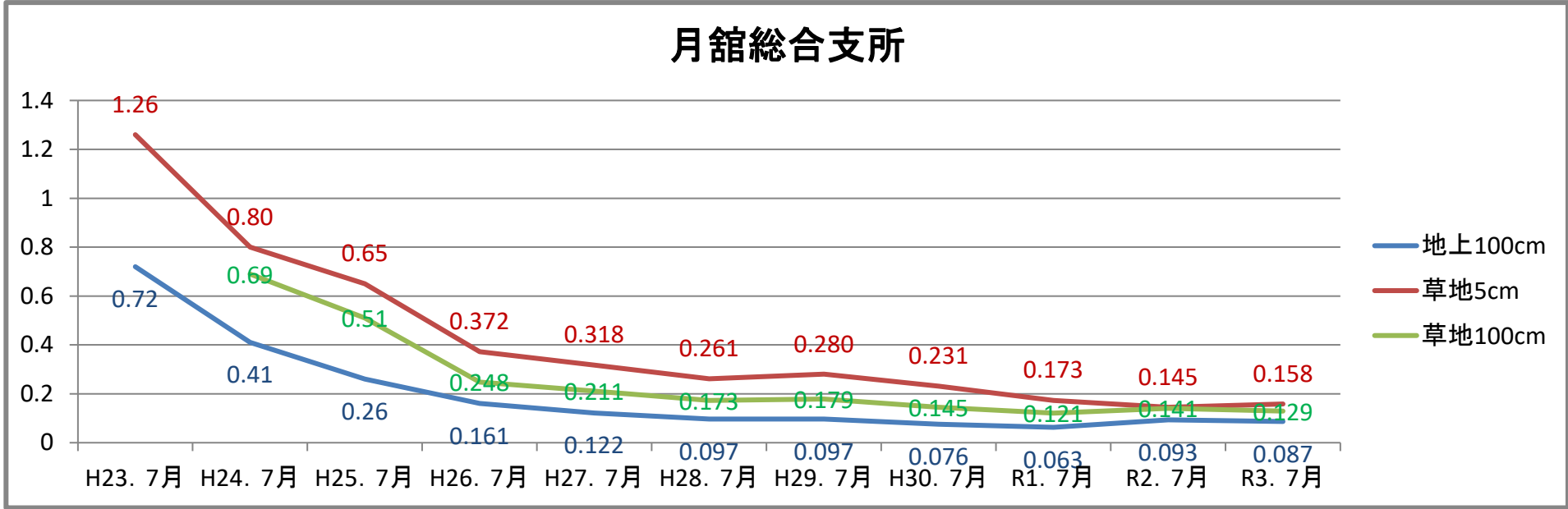
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.088	0.099	0.102	0.101	0.099	0.102	0.103

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.100	0.097	0.095	0.095	0.095	0.096	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
月舘総合支所	地上100cm	0.72	0.41	0.26	0.161	0.122	0.097	0.097	0.076	0.063	0.093	0.087
	草地5cm	1.26	0.80	0.65	0.372	0.318	0.261	0.280	0.231	0.173	0.145	0.158
	草地100cm		0.69	0.51	0.248	0.211	0.173	0.179	0.145	0.121	0.141	0.129



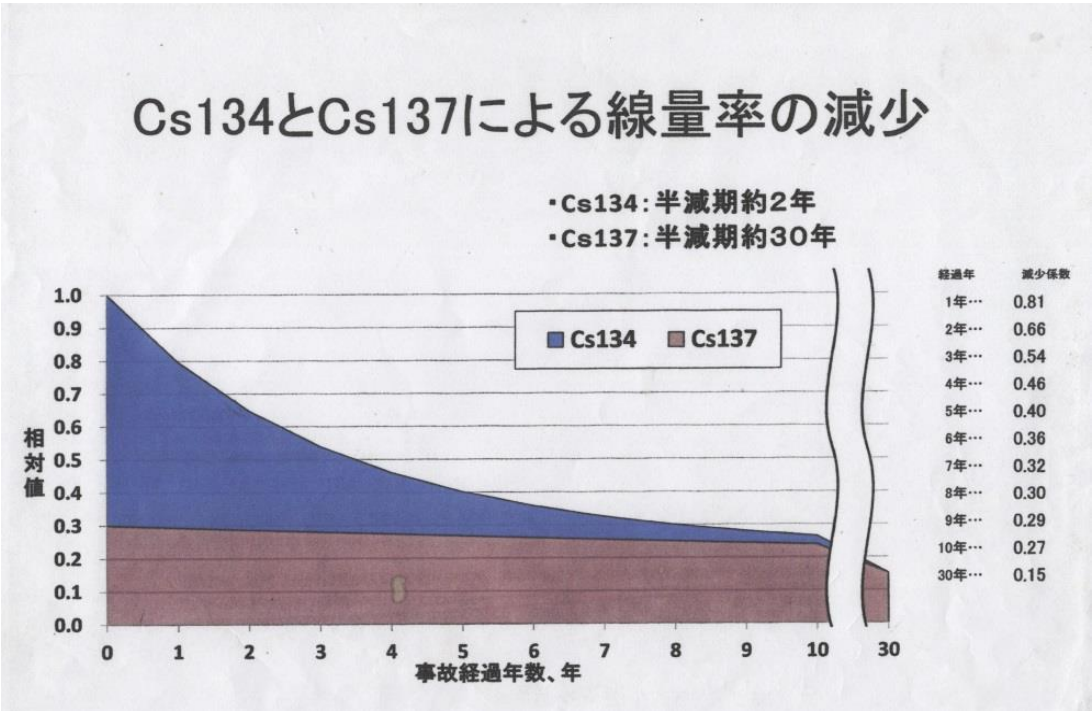
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	88%	
B	草地5cm	87%	H25. 7月花壇表土入替
C	草地100cm	81%	

※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、舗装された駐車場で周囲の影響は少ない地点であり、草地は駐車場の周囲の植込みで傍らには除染が不十分な土手があり、その影響か定点よりは高い線量で推移している。25年7月に除染が行われて大きく減少して以後、安定した数値で推移している。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

月館総合支所		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		0.72	0.41	0.26	0.161	0.122	0.097	0.097	0.076	0.063	0.093	0.087	0.076
	物理的減衰値			0.58	0.47	0.39	0.33	0.29	0.26	0.23	0.22	0.21	0.19	0.11



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

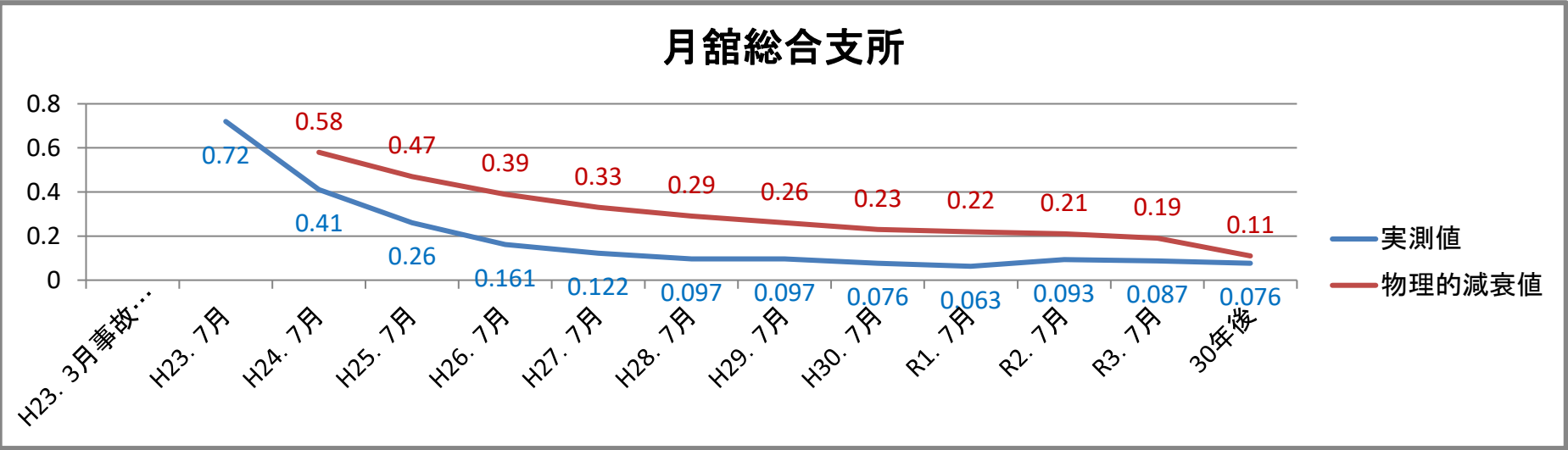
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02μSv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

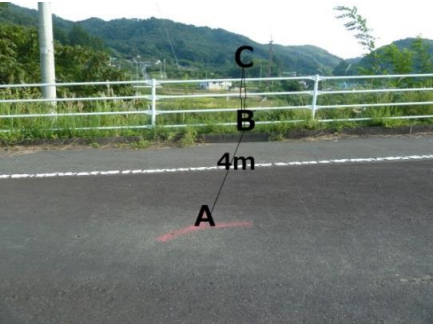
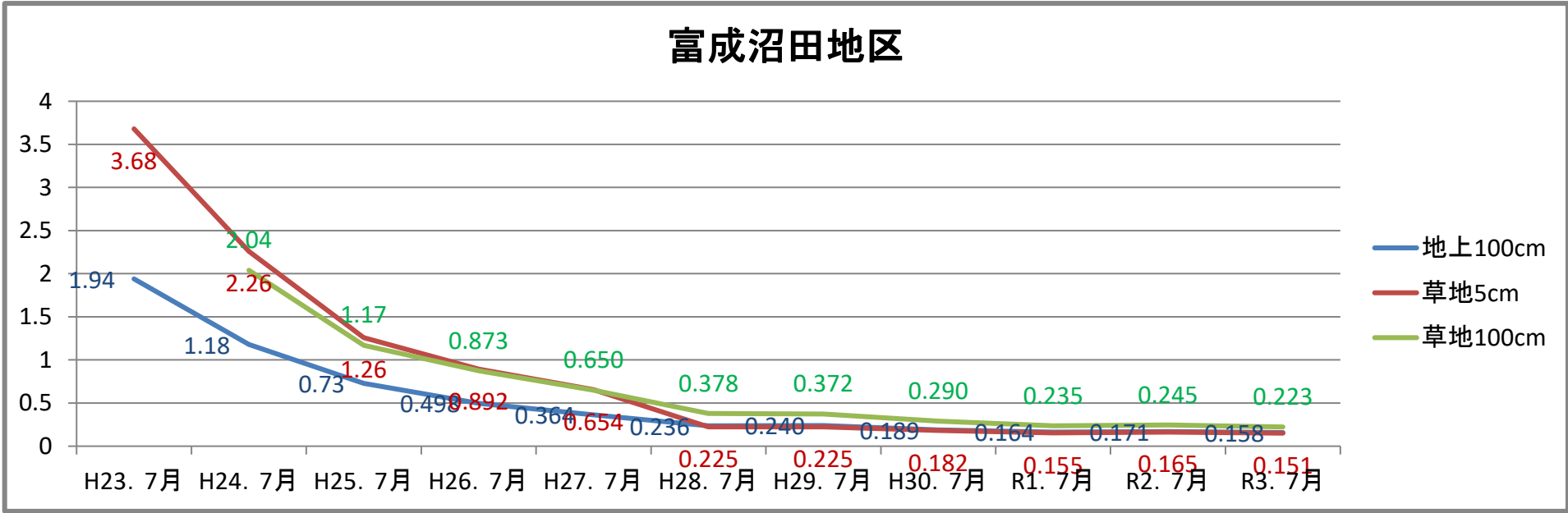
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.063	0.066	0.070	0.069	0.071	0.082	0.089

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.092	0.090	0.089	0.089	0.087	0.093	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
富成沼田地区	地上100cm	1.94	1.18	0.73	0.498	0.364	0.236	0.240	0.189	0.164	0.171	0.158
	草地5cm	3.68	2.26	1.26	0.892	0.654	0.225	0.225	0.182	0.155	0.165	0.151
	草地100cm		2.04	1.17	0.873	0.650	0.378	0.372	0.290	0.235	0.245	0.223



	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	92%	H27. 7月除染
B	草地5cm	96%	H24. 11月周辺除染・H27. 7月表土入替
C	草地100cm	89%	

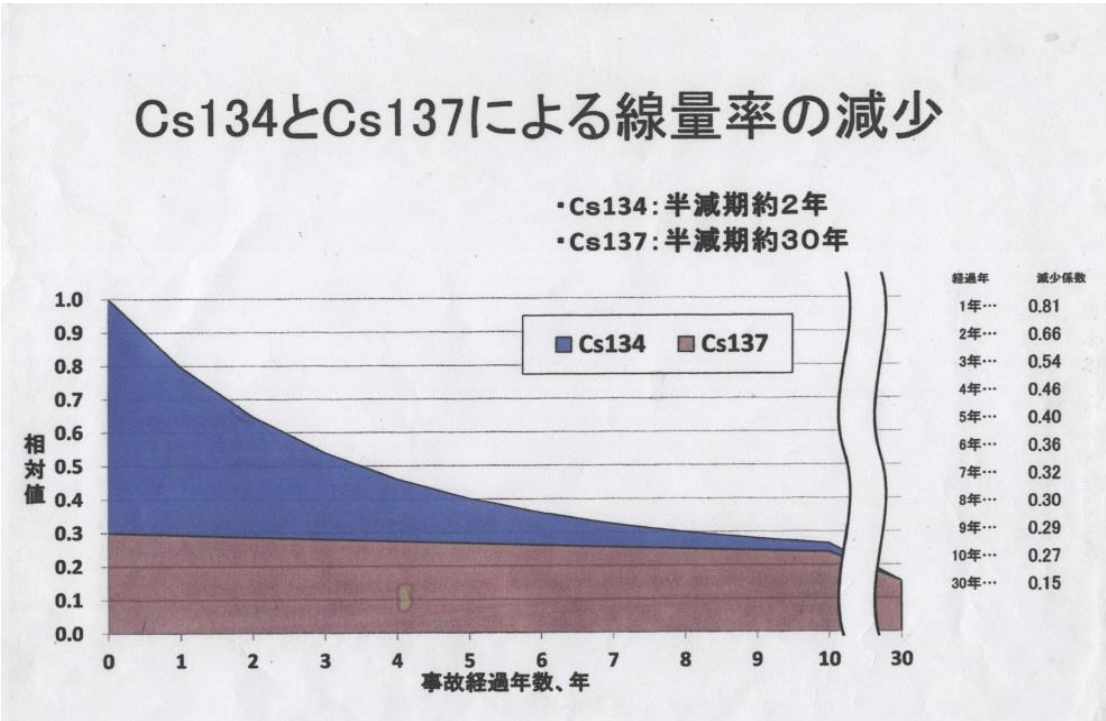
※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、舗装された道路の三叉路で傾斜があり、降水の影響も見られる地点である。草地は、縁石の外側の地点で、24年11月に除染して27年には表土を除いて砕石を入れた。以後大きく減少して安定した数値で推移している。

測定を始めた23年7月は、いずれの測定地点でも放射線量は高かったが、24年11月の除染により草地は大きく低下し、以後順調に低下している。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

富成沼田地区		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		1.94	1.18	0.73	0.498	0.364	0.236	0.24	0.189	0.164	0.171	0.158	0.139
	物理的減衰値			1.57	1.28	1.05	0.89	0.78	0.70	0.62	0.58	0.56	0.52	0.29



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

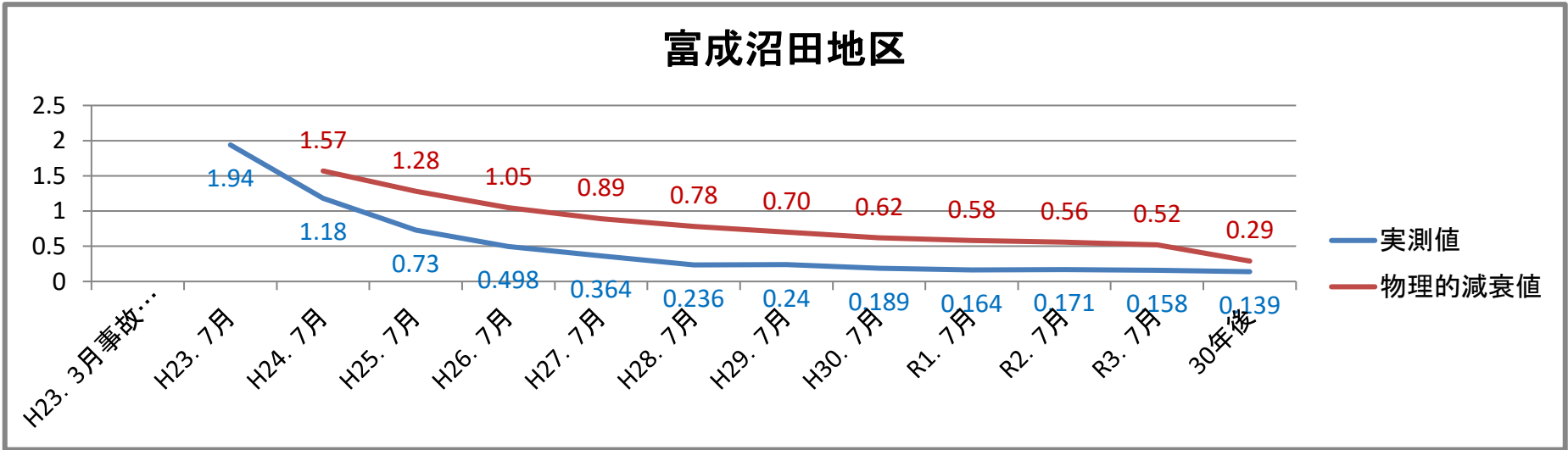
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02μSv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

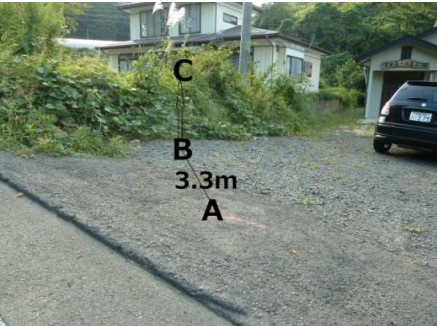
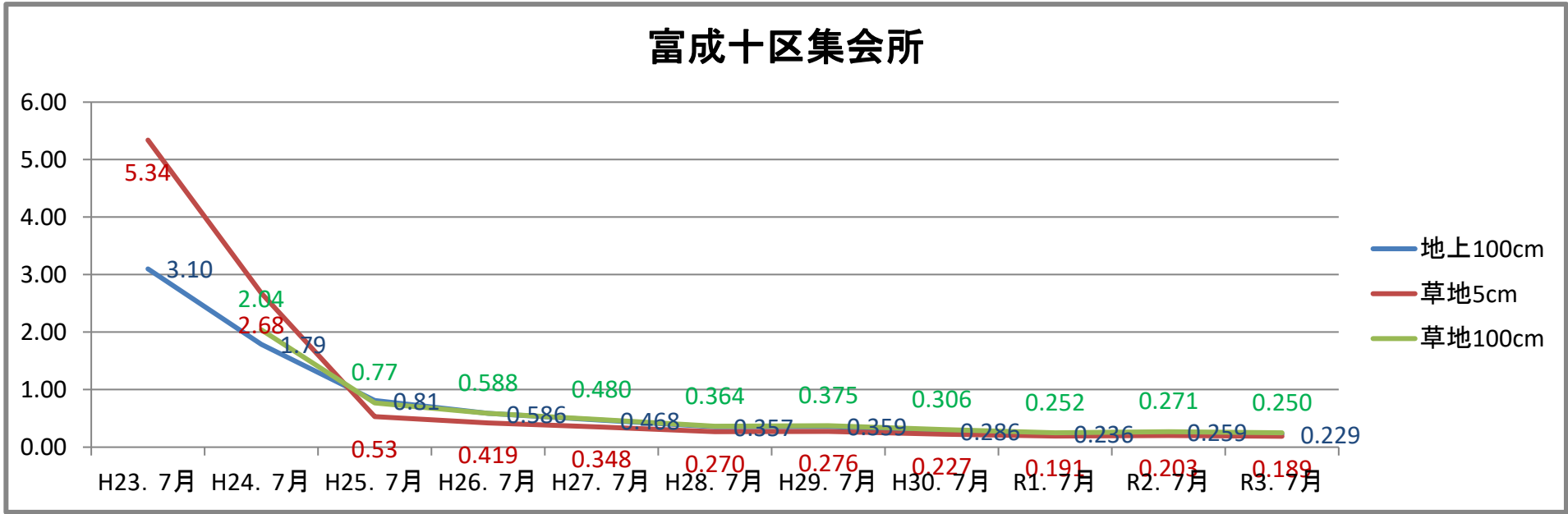
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.164	0.179	0.191	0.189	0.185	0.193	0.19

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.181	0.175	0.174	0.174	0.167	0.171	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
富成十区集会所	地上100cm	3.10	1.79	0.81	0.586	0.468	0.357	0.359	0.286	0.236	0.259	0.229
	草地5cm	5.34	2.68	0.53	0.419	0.348	0.270	0.276	0.227	0.191	0.203	0.189
	草地100cm		2.04	0.77	0.588	0.480	0.364	0.375	0.306	0.252	0.271	0.250



	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	93%	H24. 11月除染
B	草地5cm	96%	H24. 11月除染、土砂入替
C	草地100cm	88%	

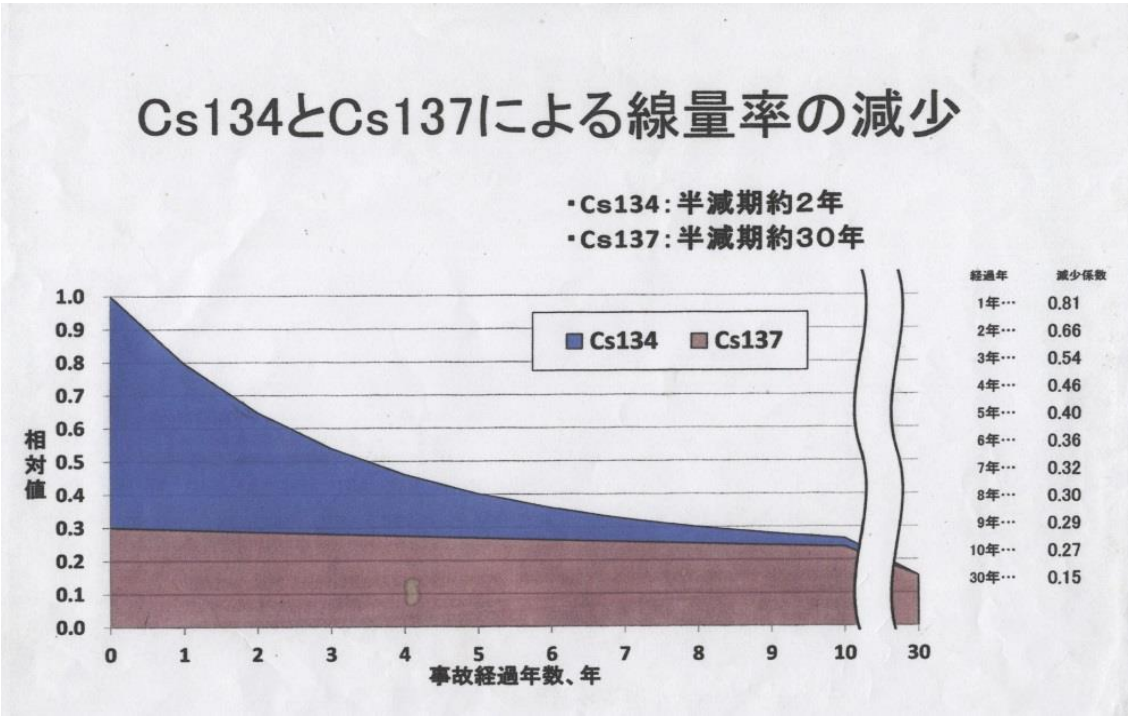
※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、舗装道路より集会所の駐車場の接点である。草地は、この周辺の1m位の土手の裾である。この地点は、上方に比較的線量の高い地区があり、放射性物質降下後降水により流下して、線量が高い地点である。24年11月にすべて除染し、以後3地点共近い値になり、減衰傾向も同じ状況で推移している。

高線量の地区で、測定開始時には地上100cmで3.1 μ Sv/h、草地5cmで5.34 μ Sv/hであったが、24年11月の除染により大きく低下した。除染効果が見られる地点である。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

富成十区集会所		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		3.1	1.79	0.81	0.586	0.468	0.357	0.359	0.286	0.236	0.259	0.229	0.201
	物理的減衰値			2.51	2.05	1.67	1.43	1.24	1.12	0.99	0.93	0.90	0.84	0.46



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

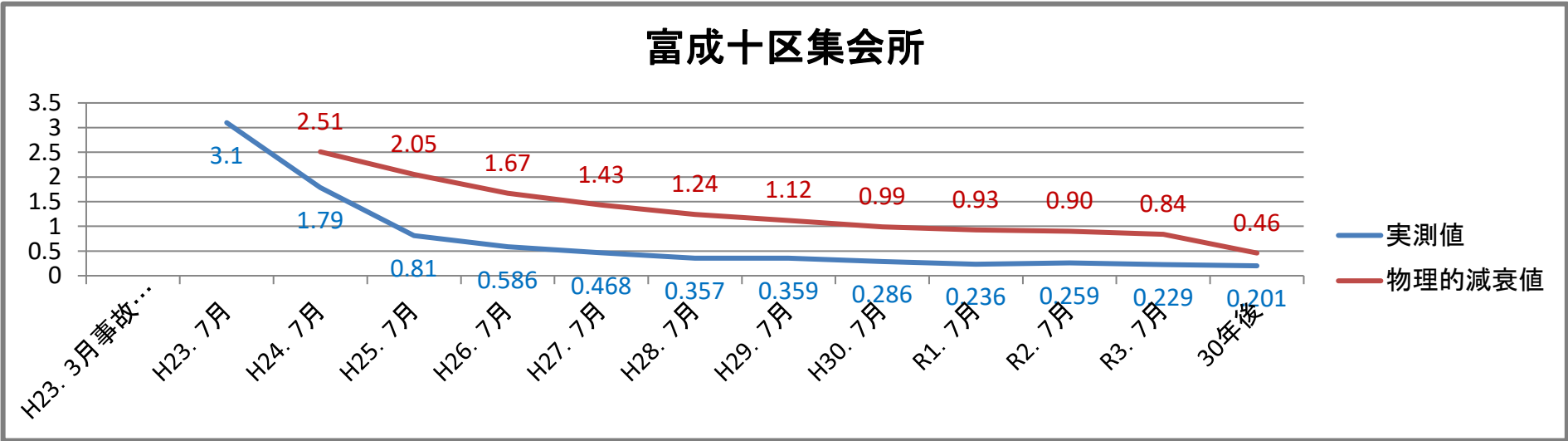
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

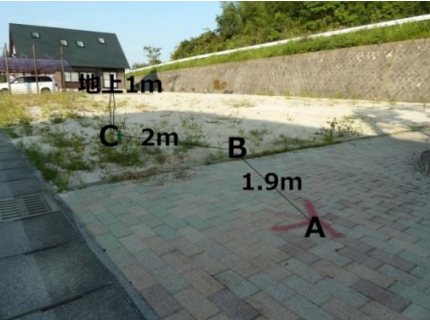
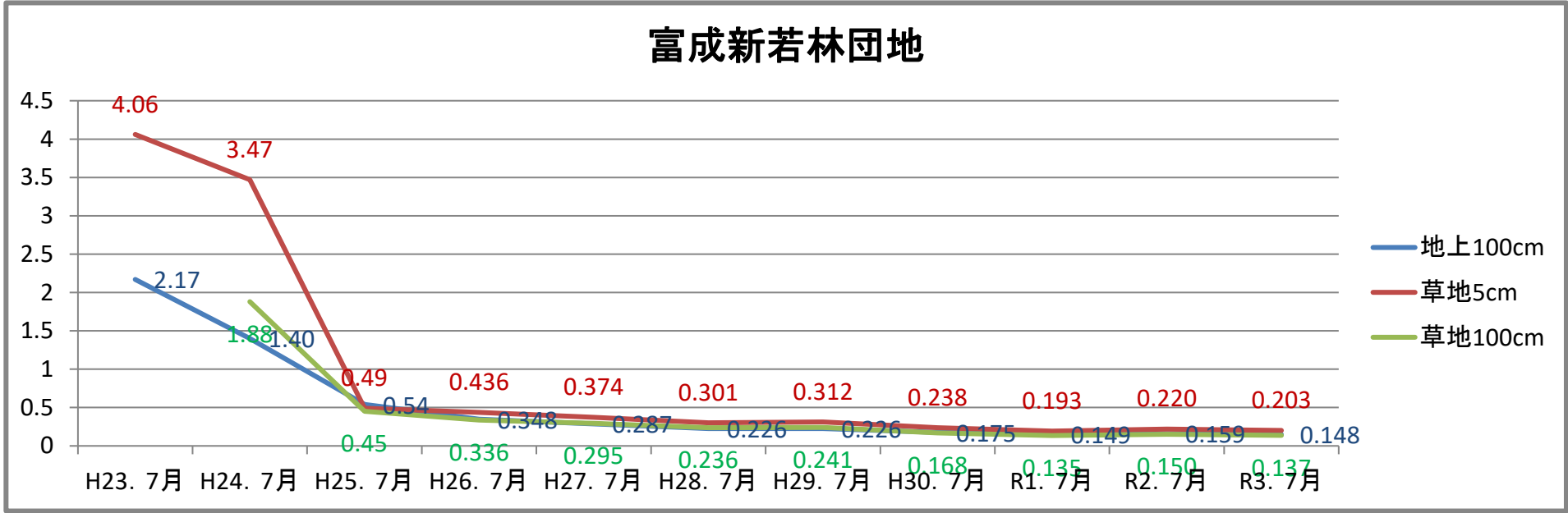
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.236	0.266	0.280	0.274	0.278	0.281	0.280

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.268	0.267	0.268	0.266	0.259	0.259	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
富成新若林団地	地上100cm	2.17	1.40	0.54	0.348	0.287	0.226	0.226	0.175	0.149	0.159	0.148
	草地5cm	4.06	3.47	0.49	0.436	0.374	0.301	0.312	0.238	0.193	0.220	0.203
	草地100cm		1.88	0.45	0.336	0.295	0.236	0.241	0.168	0.135	0.150	0.137



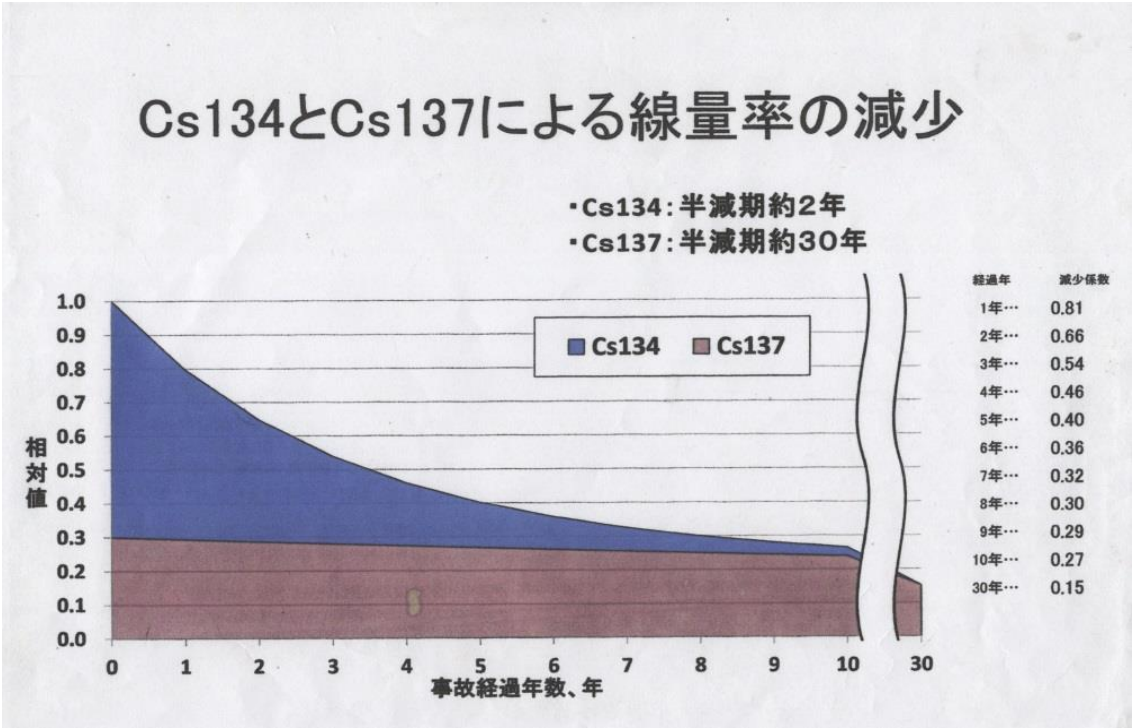
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	93%	H25. 6月除染
B	草地5cm	95%	H25. 6月除染、表土入替
C	草地100cm	93%	

※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、団地内のレンガ舗装の通路で、放射線量の高いAエリア内の地域にあり、25年6月の除染前は高線量を示していたが、除染後大きく減少している。定点、草地ともに測定開始からの減少率が90%を超えており、自然減衰の他に除染効果も見られる地点である。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

富成新若林団地		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		2.17	1.40	0.54	0.348	0.287	0.226	0.226	0.175	0.149	0.159	0.148	0.13
	物理的減衰値			1.76	1.43	1.17	1.00	0.87	0.78	0.69	0.65	0.63	0.58	0.32



○物理的減衰値（理論値）の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

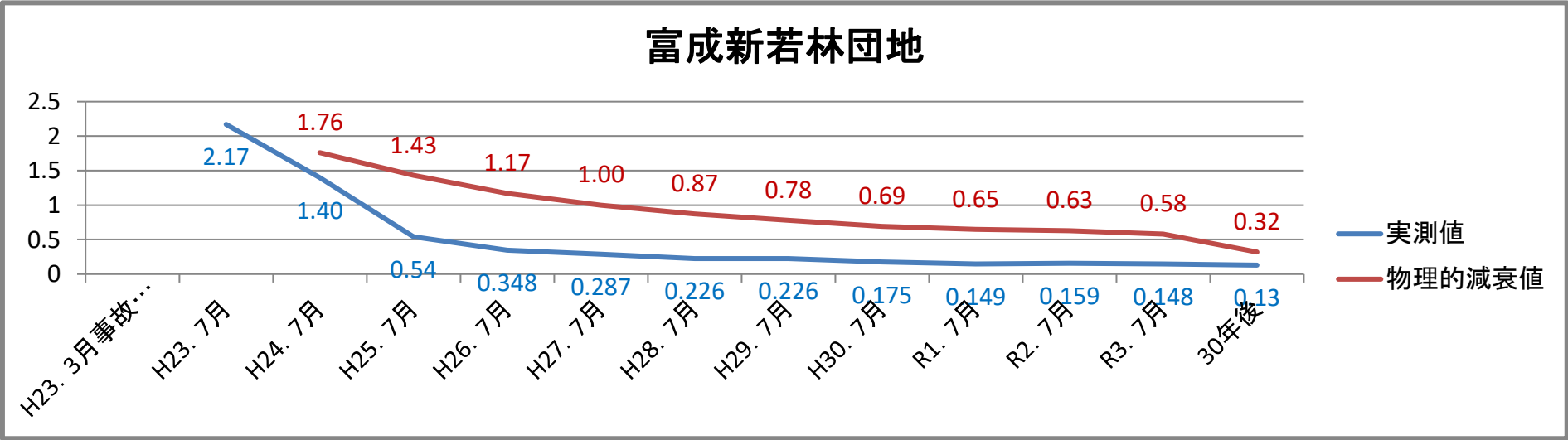
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
（参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと）

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

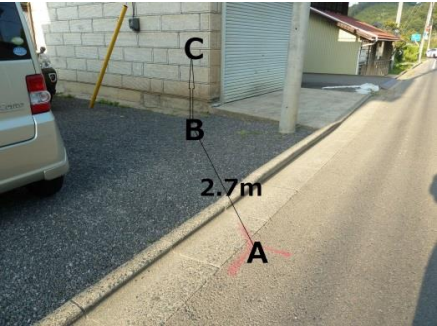
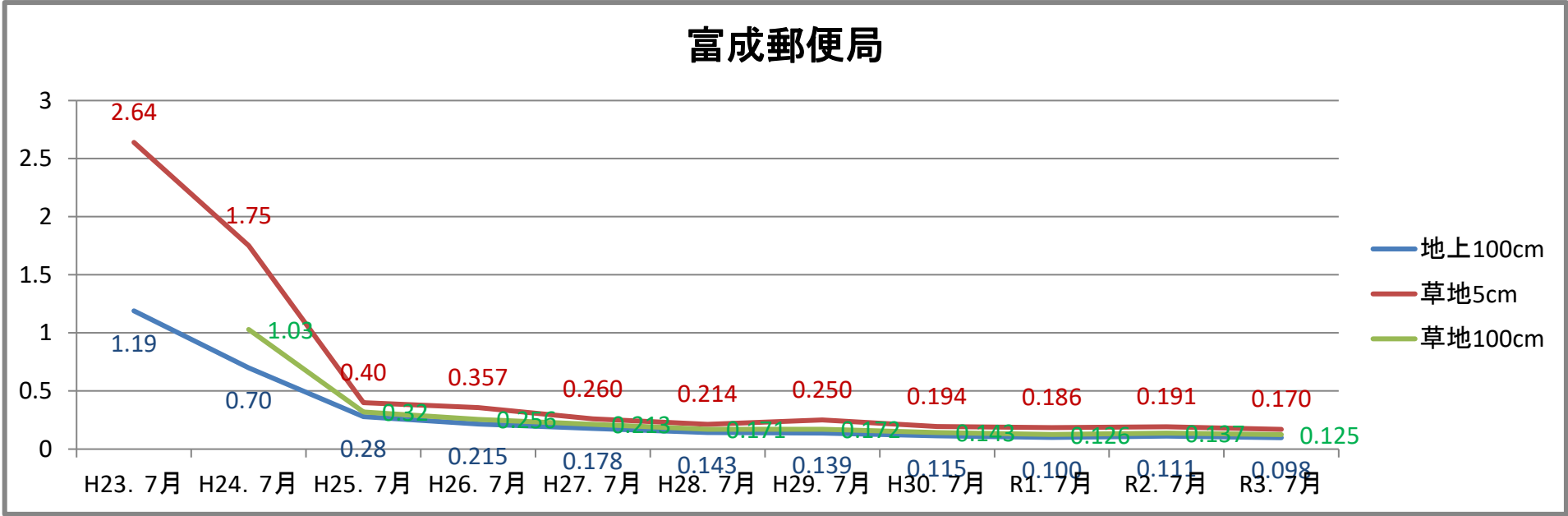
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.149	0.160	0.174	0.167	0.171	0.170	0.171

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.165	0.160	0.160	0.159	0.155	0.159	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
富成郵便局	地上100cm	1.19	0.70	0.28	0.215	0.178	0.143	0.139	0.115	0.100	0.111	0.098
	草地5cm	2.64	1.75	0.40	0.357	0.260	0.214	0.250	0.194	0.186	0.191	0.170
	草地100cm		1.03	0.32	0.256	0.213	0.171	0.172	0.143	0.126	0.137	0.125



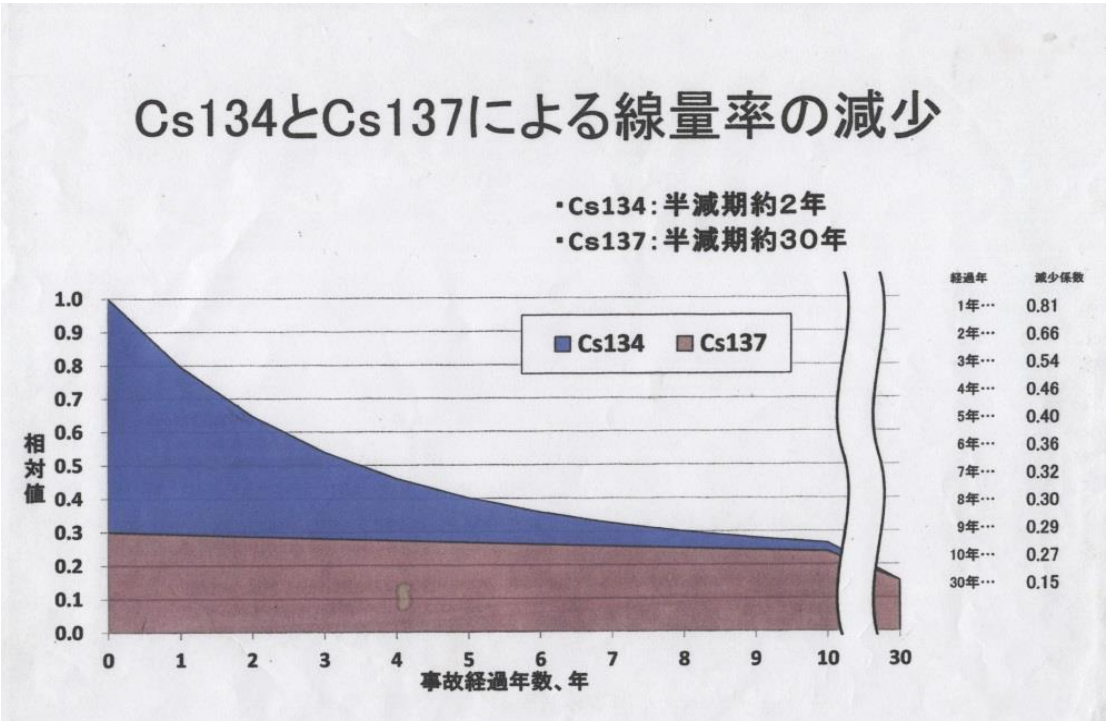
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	92%	H25. 6月除染
B	草地5cm	94%	H25. 6月除染、表土入替
C	草地100cm	88%	

※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、舗装された緩やかな傾斜のある路面で、道路縁石周辺に蓄積した土砂に放射性物質が含まれていて高い値を示していたが、25年6月の除染により線量は大きく減少して、その後は自然減衰の範囲内で緩やかに減少を続けている。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

富成郵便局		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		1.19	0.70	0.28	0.215	0.178	0.143	0.139	0.115	0.100	0.111	0.098	0.086
	物理的減衰値			0.96	0.78	0.64	0.55	0.48	0.43	0.38	0.36	0.34	0.32	0.18



○物理的減衰値（理論値）の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

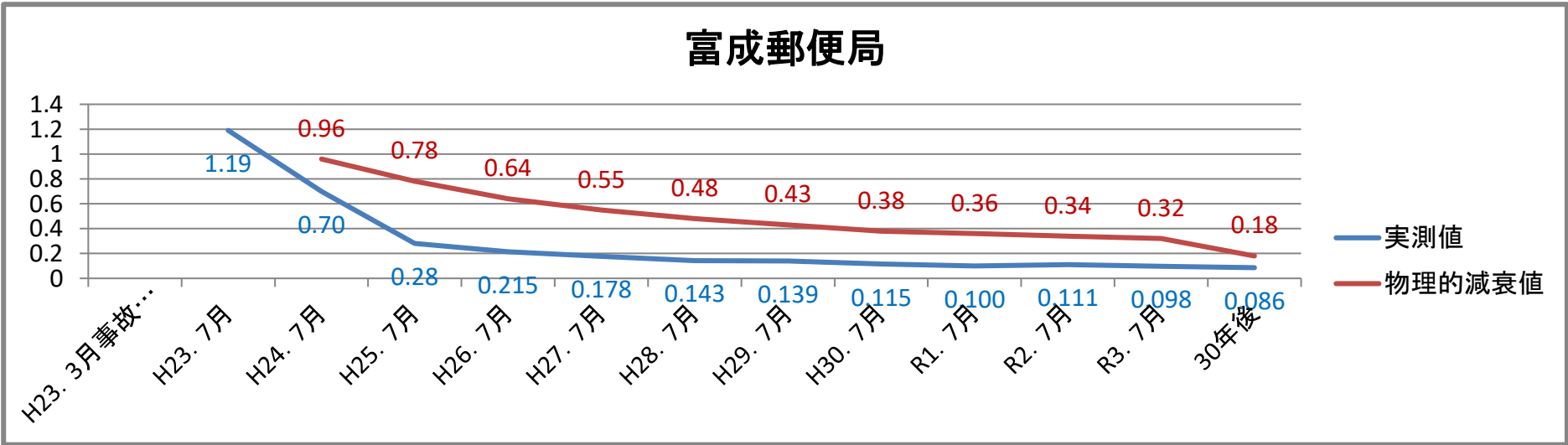
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
（参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと）

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

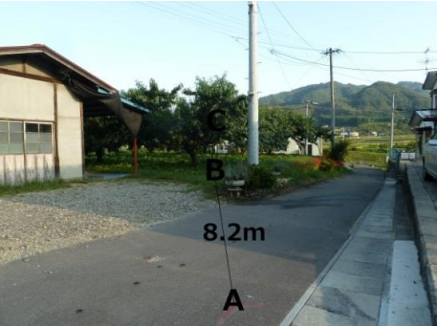
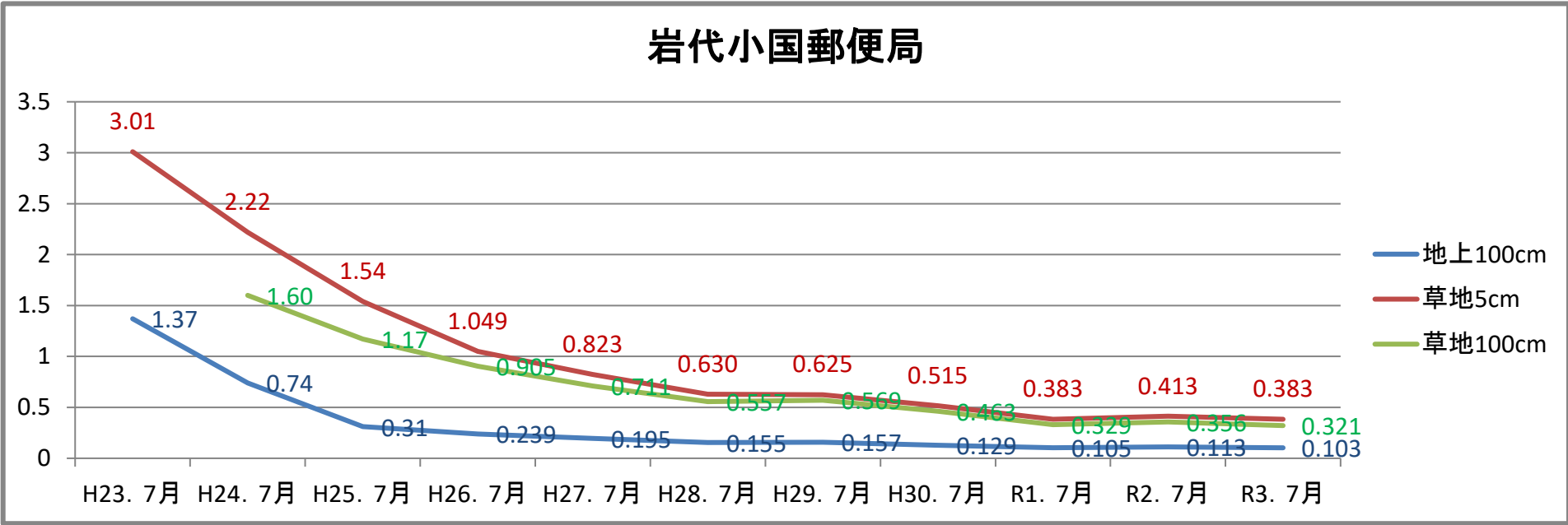
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.100	0.108	0.114	0.114	0.114	0.113	0.116

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.111	0.109	0.111	0.107	0.104	0.111	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
岩代小国郵便局	地上100cm	1.37	0.74	0.31	0.239	0.195	0.155	0.157	0.129	0.105	0.113	0.103
	草地5cm	3.01	2.22	1.54	1.049	0.823	0.630	0.625	0.515	0.383	0.413	0.383
	草地100cm		1.60	1.17	0.905	0.711	0.557	0.569	0.463	0.329	0.356	0.321



	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	92%	H24. 9月道路補修工事
B	草地5cm	87%	
C	草地100cm	80%	

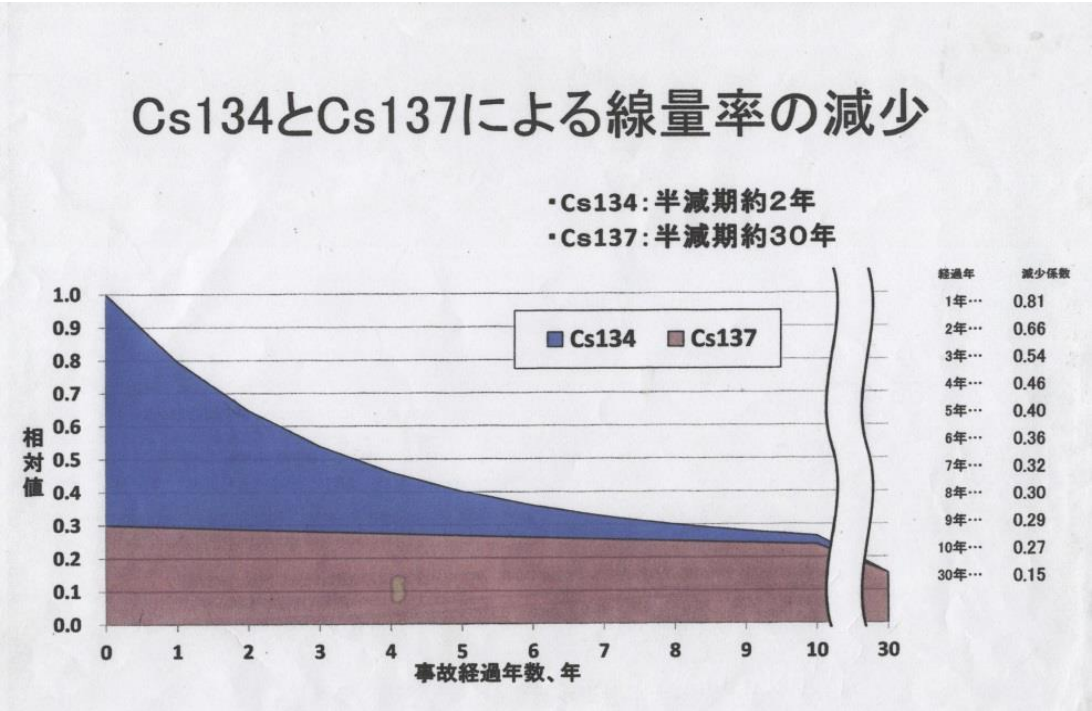
※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、国道から分かれた傾斜のあるコンクリート舗装の道路で、降雨の時は国道から濁水が流下するなど天候により線量の変化が見られる地点である。草地は桃畑で除染はされておらず、物理的減少に沿った値で推移している。

測定開始時はどの地点も高い値を示したが、定点は24年9月に除染を行なうと大きく低下した。草地は5cm、100cmともに年月の経過と共に線量の数値が近づいてきている。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
岩代小国郵便局	実測値		1.37	0.74	0.31	0.239	0.195	0.155	0.157	0.129	0.105	0.113	0.103	0.09
	物理的減衰値			1.11	0.90	0.74	0.63	0.55	0.49	0.44	0.41	0.40	0.37	0.20



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

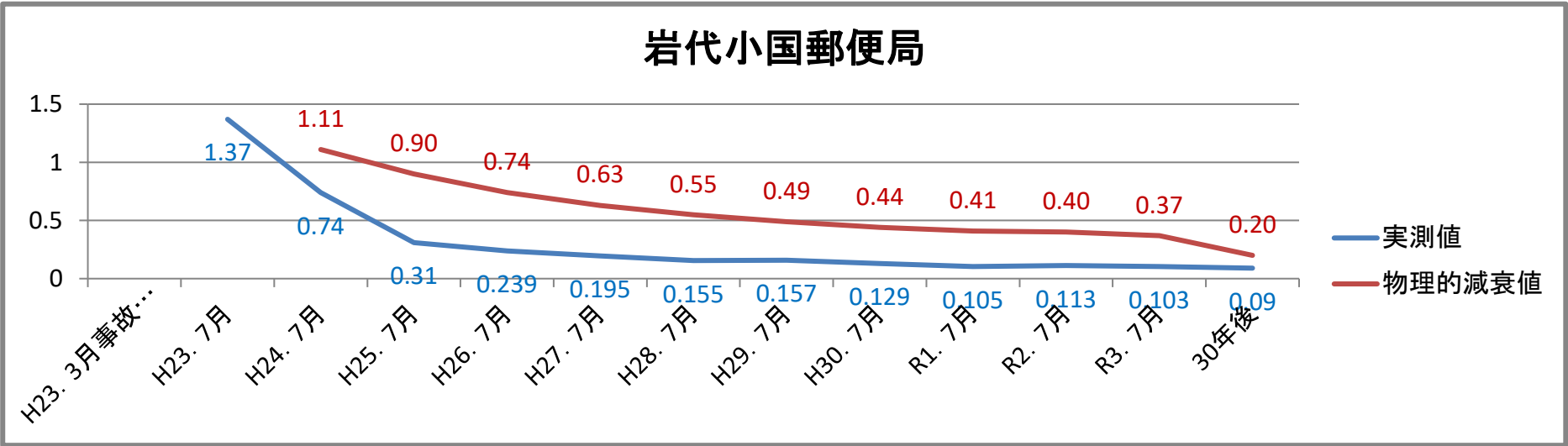
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

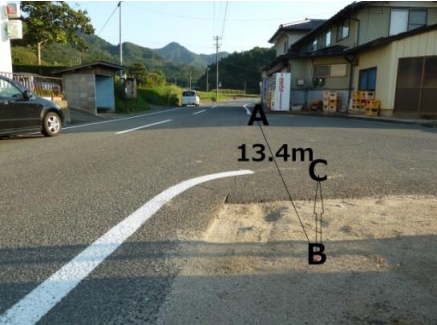
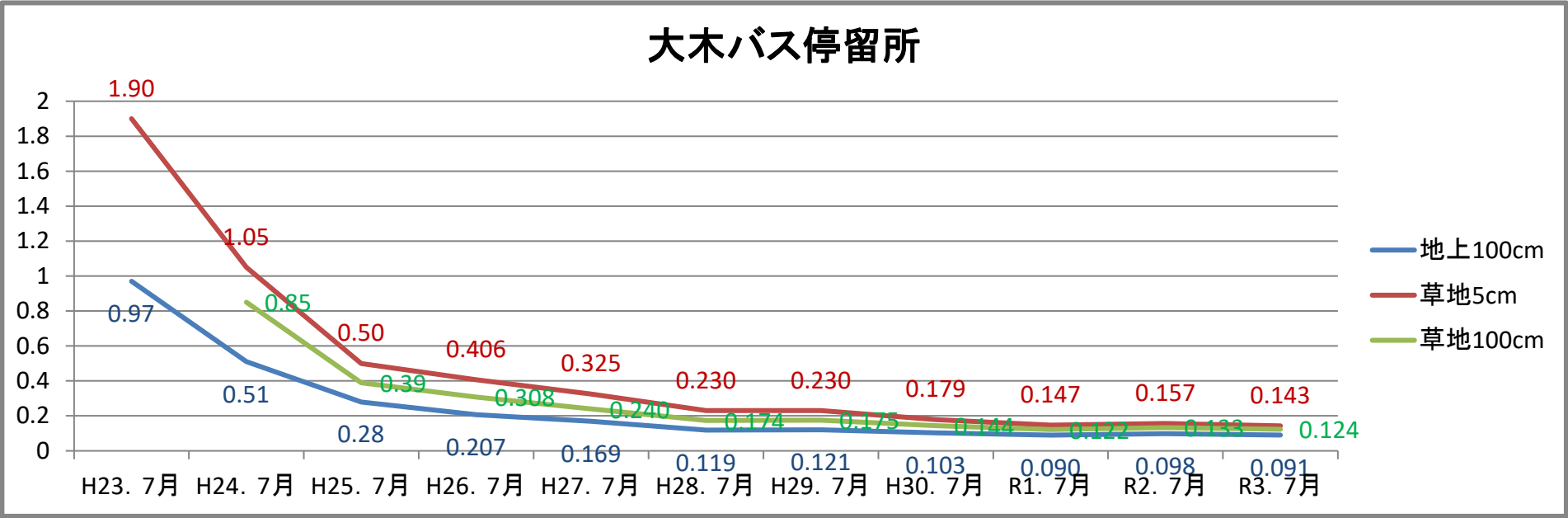
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.105	0.116	0.121	0.119	0.119	0.119	0.121

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.112	0.112	0.113	0.113	0.112	0.113	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
大木バス停留所	地上100cm	0.97	0.51	0.28	0.207	0.169	0.119	0.121	0.103	0.090	0.098	0.091
	草地5cm	1.90	1.05	0.50	0.406	0.325	0.230	0.230	0.179	0.147	0.157	0.143
	草地100cm		0.85	0.39	0.308	0.240	0.174	0.175	0.144	0.122	0.133	0.124



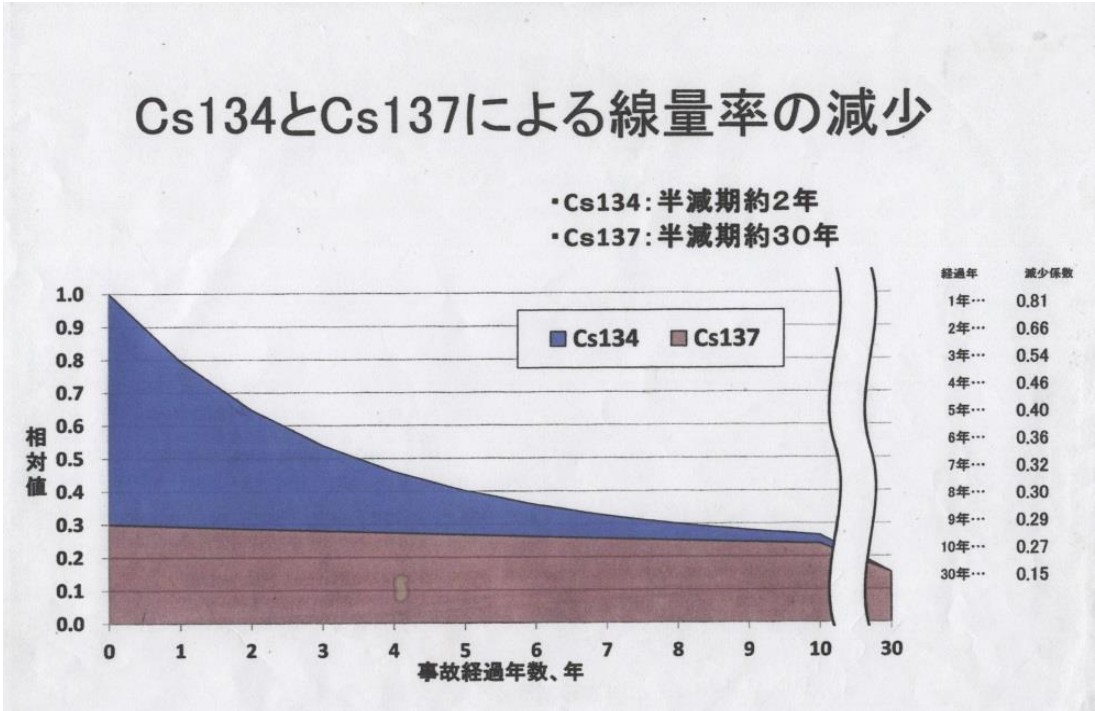
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	91%	H24. 10月除染
B	草地5cm	92%	H24. 10月除染、表土入替
C	草地100cm	85%	

※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、わずかに傾斜のある舗装道路の三叉路で、風があると線量に変化が見られる地点である。線量が高かったAエリアの小国地区にあっては比較的線量が低い地域にあり、24年10月の除染の結果大きく減少して以後、定点・草地共に同じような傾向で減衰している。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

大木バス停留所		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		0.97	0.51	0.28	0.207	0.169	0.119	0.121	0.103	0.090	0.098	0.091	0.080
	物理的減衰値			0.78	0.64	0.52	0.45	0.39	0.35	0.31	0.29	0.28	0.26	0.14



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

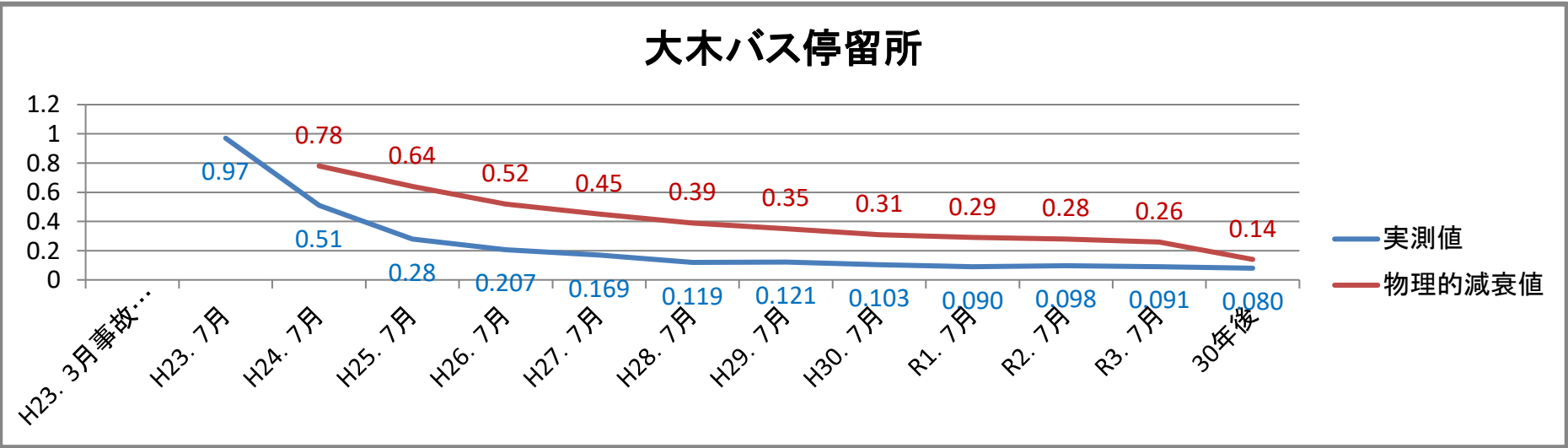
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02μSv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

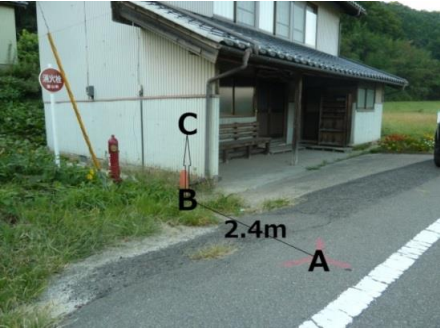
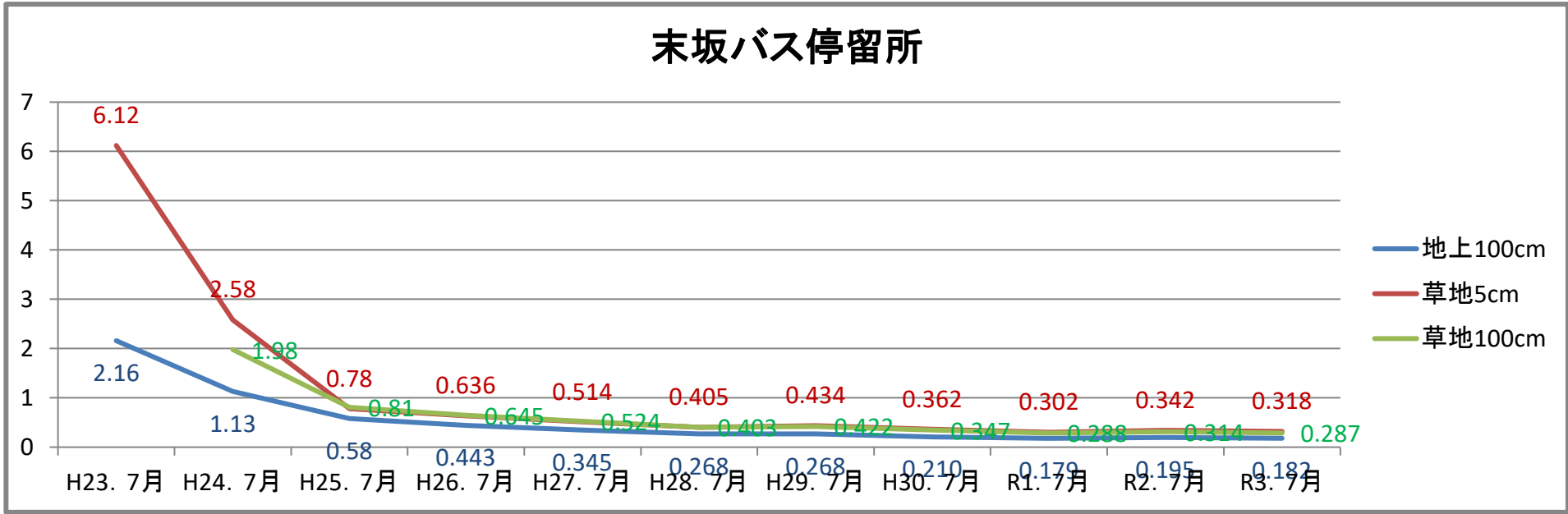
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.090	0.097	0.103	0.102	0.102	0.105	0.104

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.101	0.099	0.099	0.096	0.094	0.098	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
末坂バス停留所	地上100cm	2.16	1.13	0.58	0.443	0.345	0.268	0.268	0.210	0.179	0.195	0.182
	草地5cm	6.12	2.58	0.78	0.636	0.514	0.405	0.434	0.362	0.302	0.342	0.318
	草地100cm		1.98	0.81	0.645	0.524	0.403	0.422	0.347	0.288	0.314	0.287



	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	92%	H24. 9月除染
B	草地5cm	95%	H24. 9月除染、土砂入替
C	草地100cm	85%	

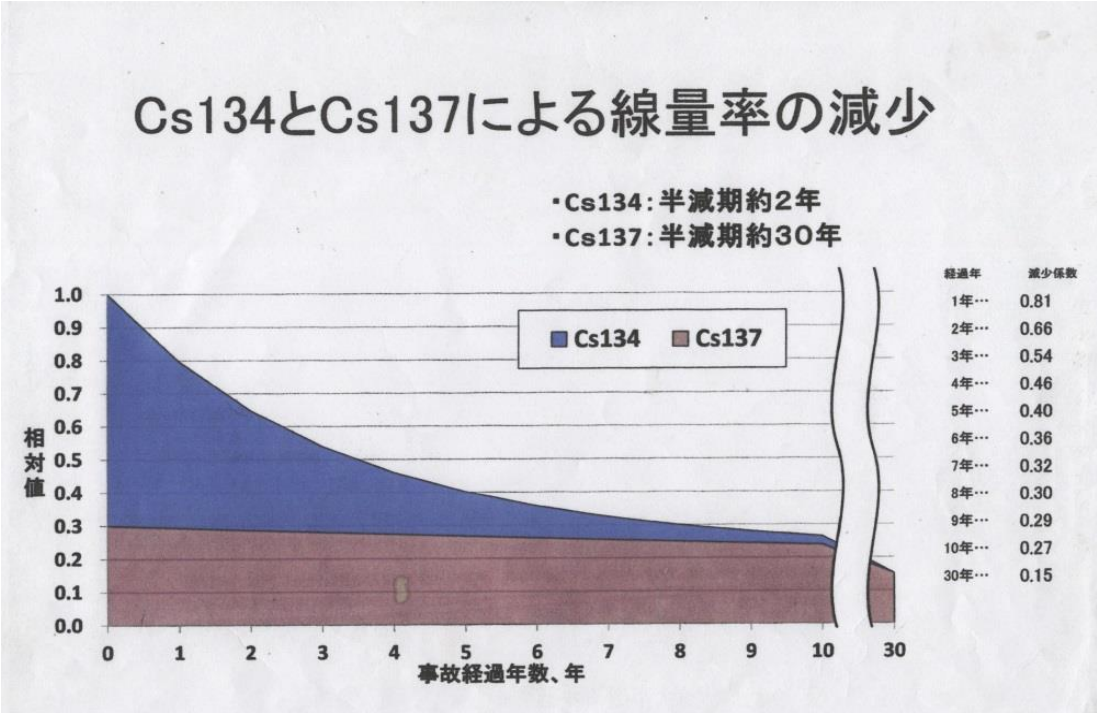
※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、コンクリートの舗装の道路で、測定当初は放射性物質が降雨の度に流れ、路面の草地線量が異常に高い時があった。また、四方より風が吹くので風の影響も見られた。草地は、道路に接した窪地で降水があると土砂が堆積することが多かった。

草地は24年9月に除染、表土入替が行われて以後大きく低下した。5cm、100cmの線量の差もなくなってきている。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

末坂バス停留所		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		2.16	1.13	0.58	0.443	0.345	0.268	0.268	0.210	0.179	0.195	0.182	0.160
	物理的減衰値			1.75	1.42	1.17	0.99	0.86	0.78	0.69	0.65	0.63	0.58	0.32



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

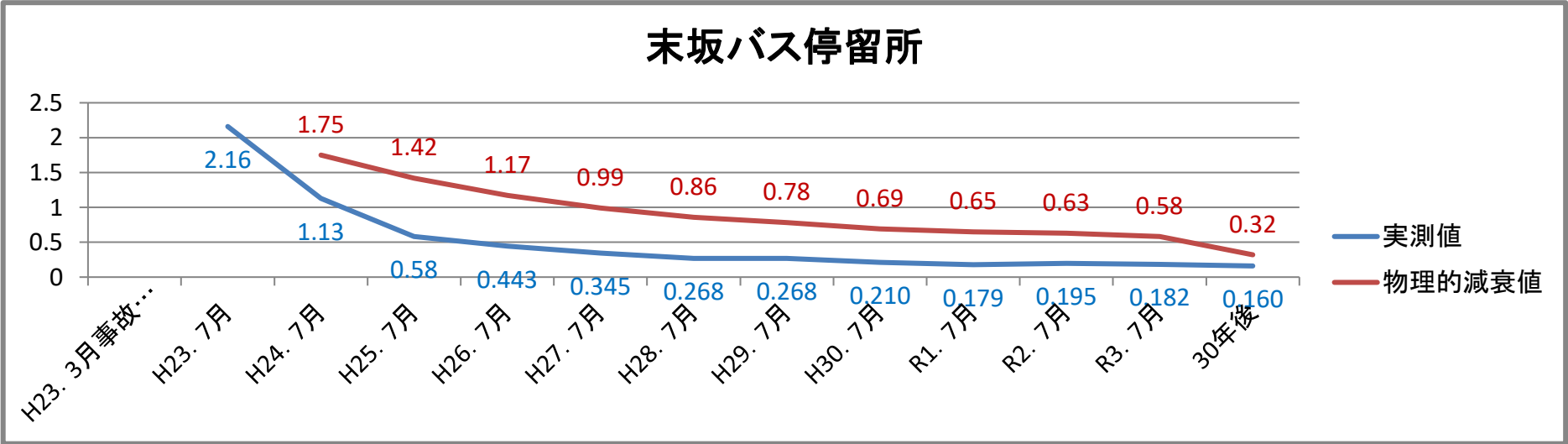
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

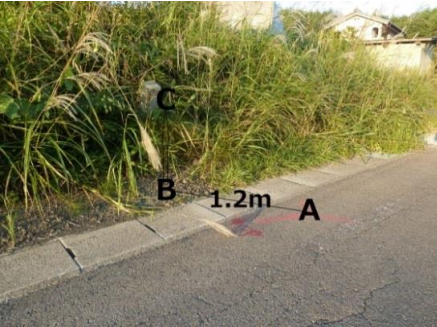
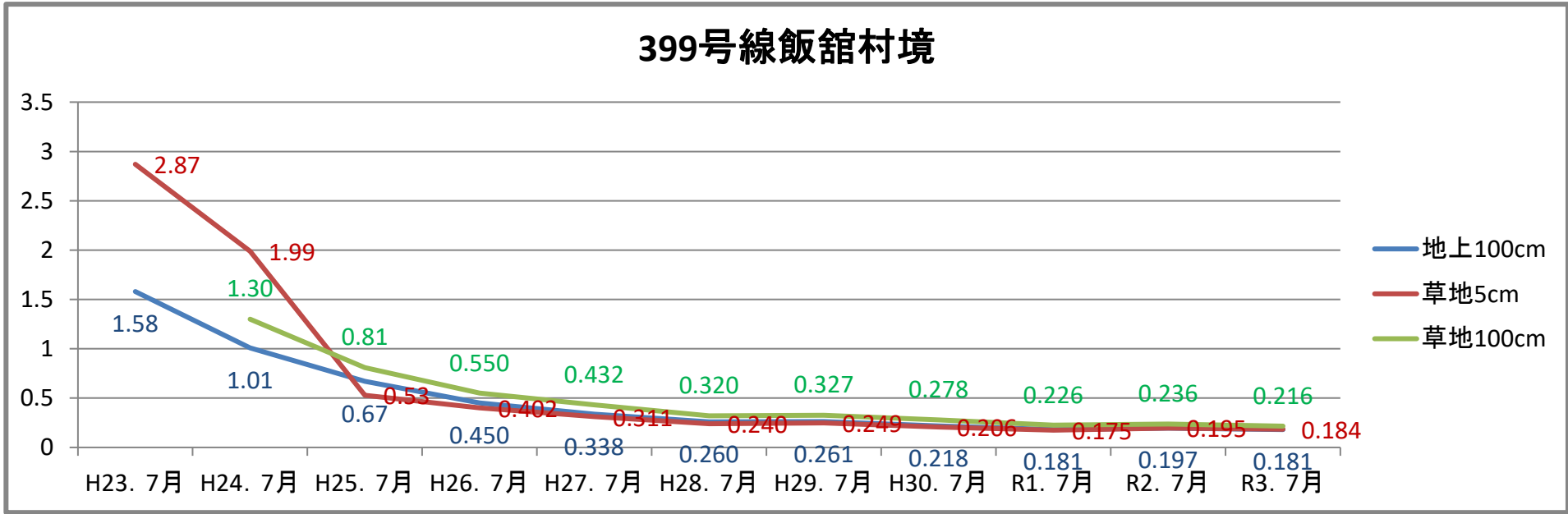
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.179	0.198	0.212	0.209	0.215	0.214	0.216

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.210	0.205	0.203	0.195	0.194	0.195	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
399号線飯舘村境	地上100cm	1.58	1.01	0.67	0.450	0.338	0.260	0.261	0.218	0.181	0.197	0.181
	草地5cm	2.87	1.99	0.53	0.402	0.311	0.240	0.249	0.206	0.175	0.195	0.184
	草地100cm		1.30	0.81	0.550	0.432	0.320	0.327	0.278	0.226	0.236	0.216



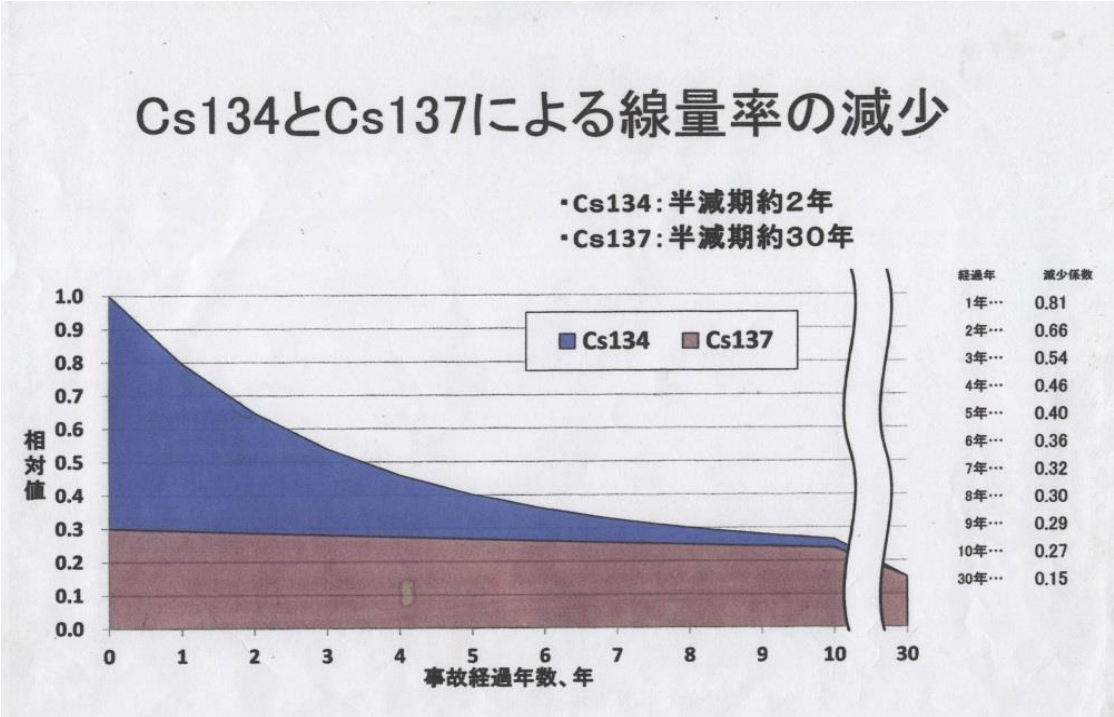
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	89%	
B	草地5cm	94%	H25. 6月路肩表土入替
C	草地100cm	83%	

※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、伊達市と飯舘村の境界線上のコンクリート舗装の道路で、低温・降雪・積雪が多く、また強風の地点で、天候による影響を受けやすい地点である。冬期間は積雪が多く、雪による遮蔽効果が大きく、融雪と共に元に戻る現象が見られる。25年6月に路肩の除染が行われ、草地の線量が大きく低下した。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

399号線飯舘村境		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		1.58	1.01	0.67	0.450	0.338	0.260	0.261	0.218	0.181	0.197	0.181	0.159
	物理的減衰値			1.28	1.04	0.85	0.73	0.63	0.57	0.50	0.47	0.46	0.43	0.24



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

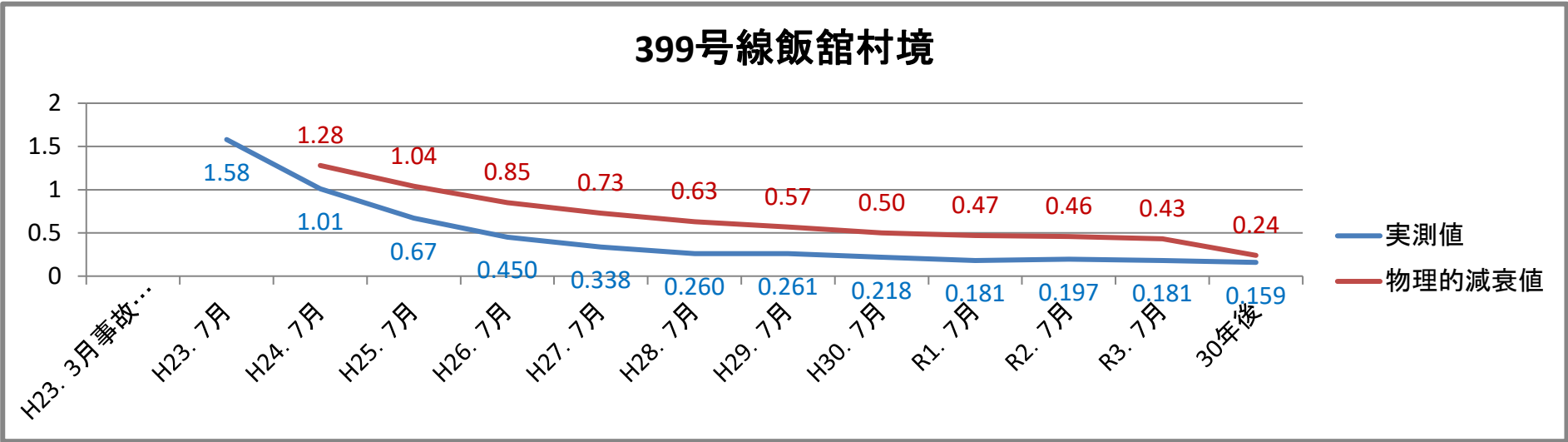
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

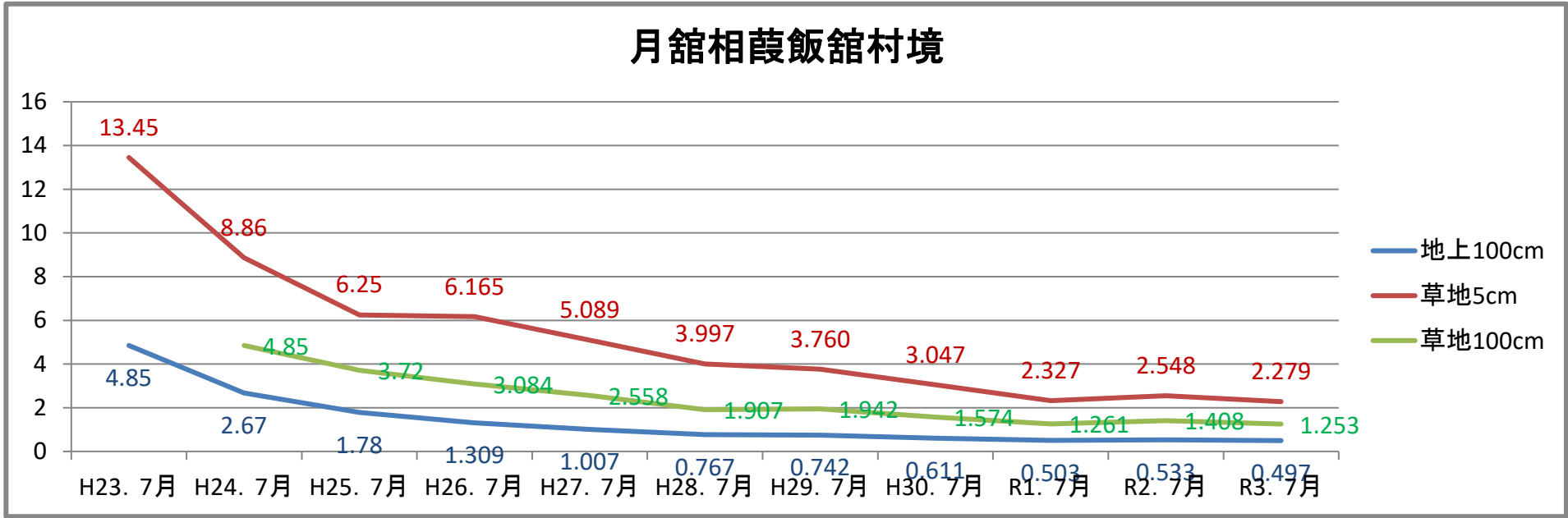
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.181	0.203	0.211	0.208	0.210	0.214	0.211

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.204	0.202	0.200	0.200	0.198	0.197	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
月舘相葭飯舘村境	地上100cm	4.85	2.67	1.78	1.309	1.007	0.767	0.742	0.611	0.503	0.533	0.497
	草地5cm	13.45	8.86	6.25	6.165	5.089	3.997	3.760	3.047	2.327	2.548	2.279
	草地100cm		4.85	3.72	3.084	2.558	1.907	1.942	1.574	1.261	1.408	1.253



	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	80%	
B	草地5cm	83%	
C	草地100cm	74%	

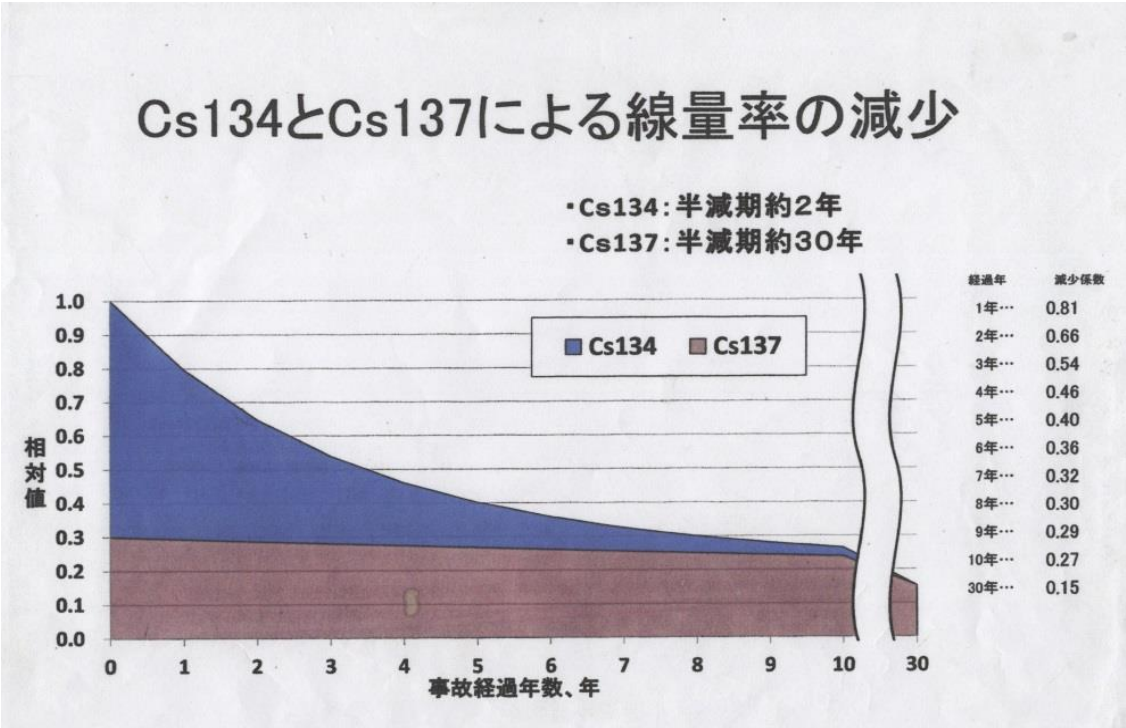
※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、伊達市と飯舘村との境界線上の舗装道路で切り通しの地形で、両側に崖があり、周辺の線量が極めて高く、測定当初は側溝の土砂は線量測定器の限界値30 μ Sv/hを超えていた。また、風や降水、積雪量が激しく測定値が大きく変化する地点でもある。

全ての地点で測定当初は極めて高い値を示していたが、時間の経過とともに低下している。しかしながら現在も測定地点中では一番高い値を示している。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
月館相葭飯館村境	実測値		4.85	2.67	1.78	1.309	1.007	0.767	0.742	0.611	0.503	0.533	0.497	0.437
	物理的減衰値			3.93	3.20	2.62	2.23	1.94	1.75	1.55	1.45	1.41	1.31	0.73



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

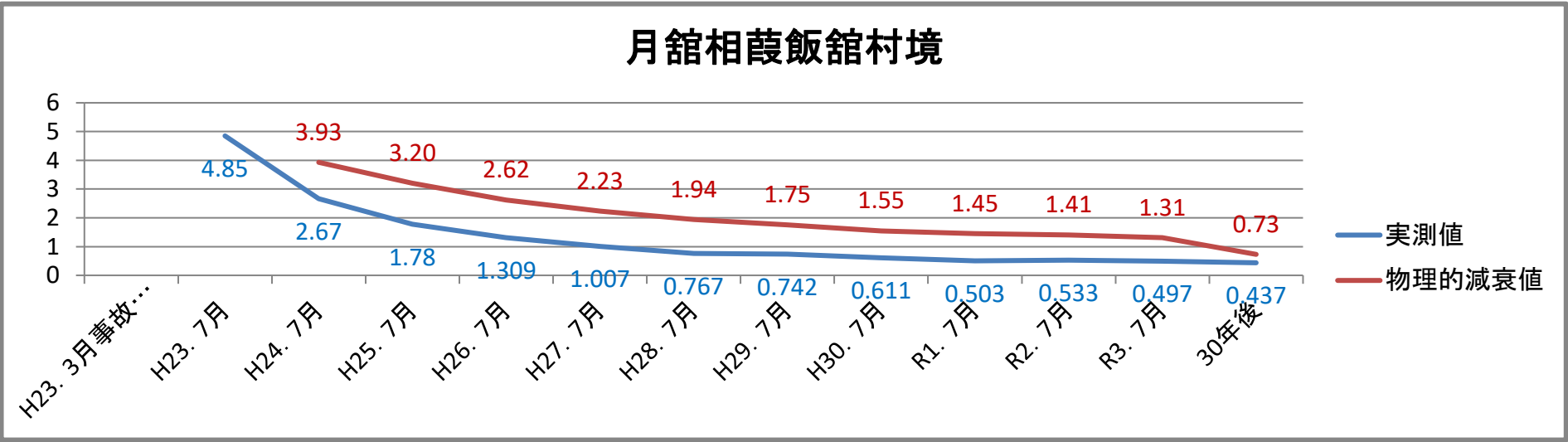
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

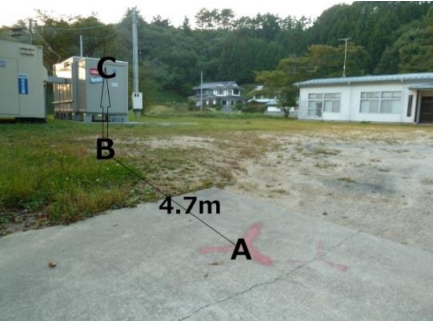
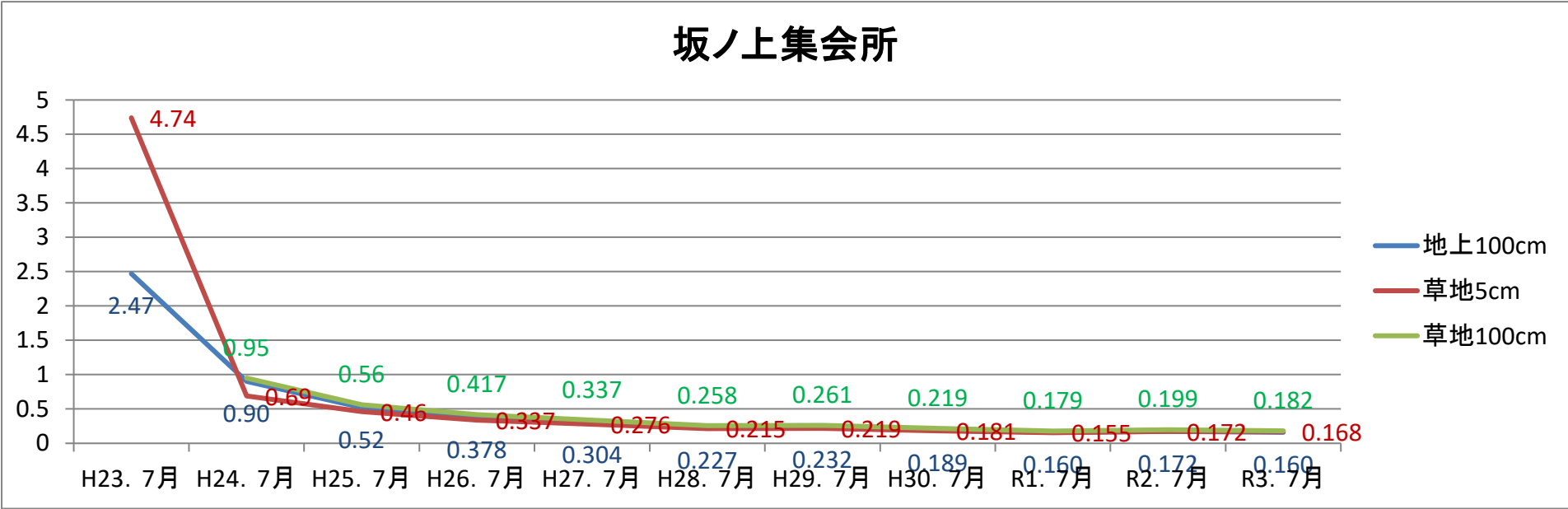
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.503	0.564	0.595	0.576	0.591	0.600	0.586

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.567	0.559	0.552	0.546	0.540	0.533	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
坂ノ上集会所	地上100cm	2.47	0.90	0.52	0.378	0.304	0.227	0.232	0.189	0.160	0.172	0.160
	草地5cm	4.74	0.69	0.46	0.337	0.276	0.215	0.219	0.181	0.155	0.172	0.168
	草地100cm		0.95	0.56	0.417	0.337	0.258	0.261	0.219	0.179	0.199	0.182



	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	94%	H23. 12月除染
B	草地5cm	96%	H23. 12月除染、表土入替
C	草地100cm	81%	

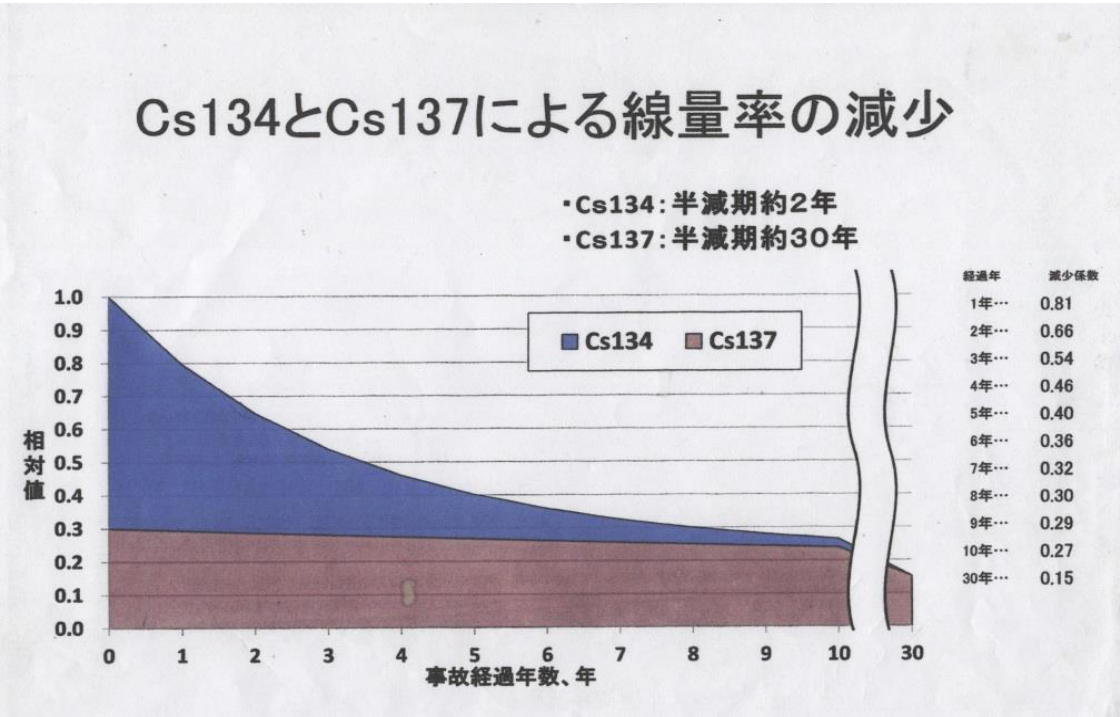
※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、集会所に通じるコンクリート舗装道路で、測定当初は極めて線量が高く、23年11～12月にいち早く除染を行ない、その効果が大きく見られる地点である。この地点は積雪量が多く、期間も長いため冬期間の線量は雪による遮蔽効果で大きく低下する地点でもある。

測定地点中で一番減少率が高い地点である。
28年1月に90%の減少率となり、以来90%以上の減少率で推移している。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

坂ノ上集会所		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		2.47	0.90	0.52	0.378	0.304	0.227	0.232	0.189	0.160	0.172	0.160	0.140
	物理的減衰値			2.00	1.63	1.33	1.14	0.99	0.89	0.79	0.74	0.72	0.67	0.37



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

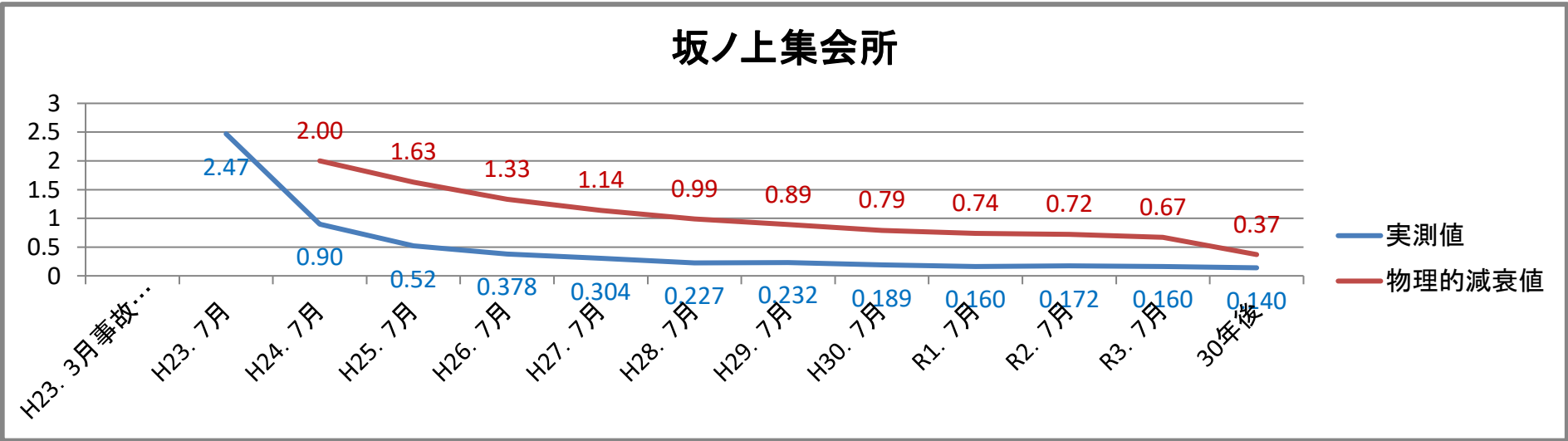
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02μSv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

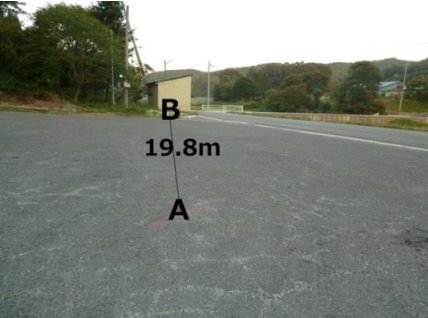
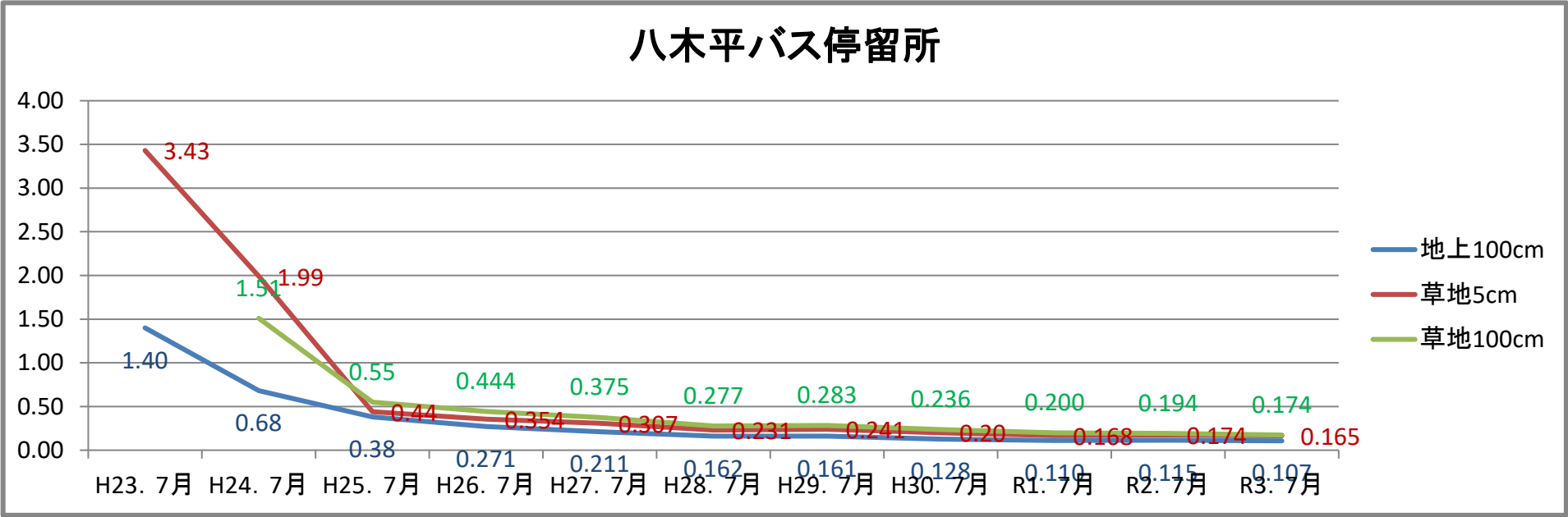
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.16	0.177	0.187	0.184	0.186	0.189	0.185

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.180	0.177	0.176	0.175	0.171	0.172	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
八木平バス停留所	地上100cm	1.40	0.68	0.38	0.271	0.211	0.162	0.161	0.128	0.110	0.115	0.107
	草地5cm	3.43	1.99	0.44	0.354	0.307	0.231	0.241	0.20	0.168	0.174	0.165
	草地100cm		1.51	0.55	0.444	0.375	0.277	0.283	0.236	0.200	0.194	0.174



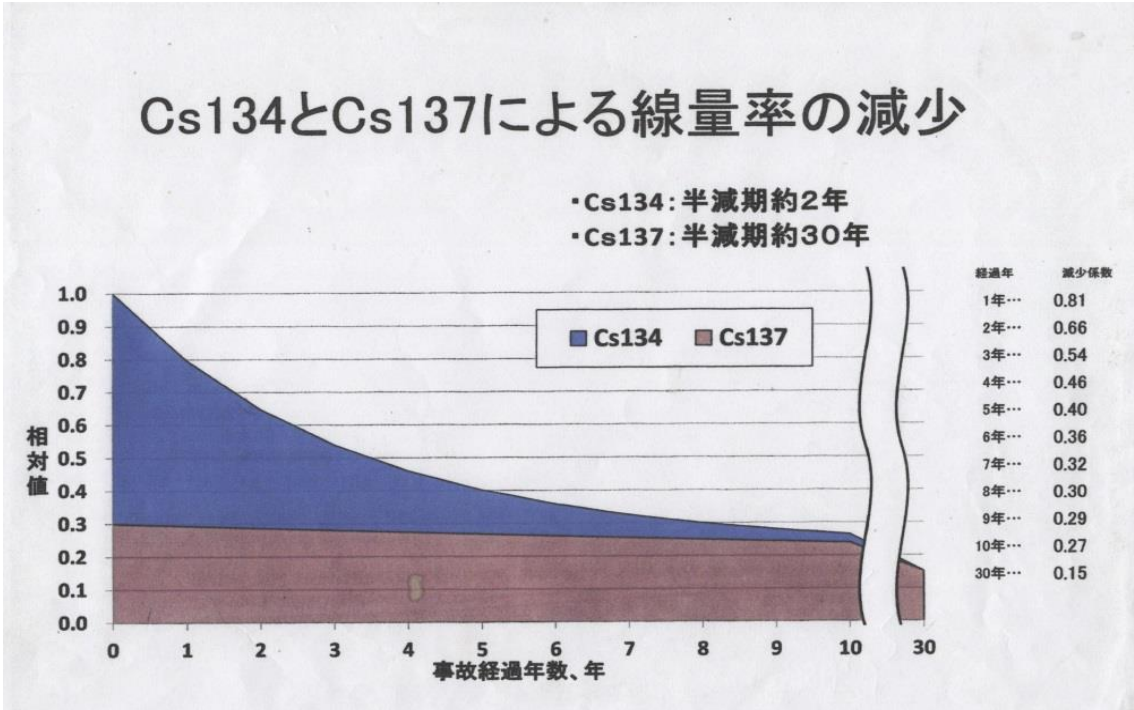
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	92%	
B	草地5cm	92%	H24. 12月除染、表土入替
C	草地100cm	88%	

※C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、コンクリート舗装のバス回転所の広場のほぼ中央であり、車が停車していることが多く、常時風が吹いている地点である。24年12月に周辺の除染が行われ、草地の線量が大きく減少して以後、3地点共同様な数値で減少を続けている。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

八木平バス停留所		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値		1.40	0.68	0.38	0.271	0.211	0.162	0.161	0.128	0.110	0.115	0.107	0.094
	物理的減衰値			1.13	0.92	0.76	0.64	0.56	0.50	0.45	0.42	0.41	0.38	0.21



○物理的減衰値（理論値）の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

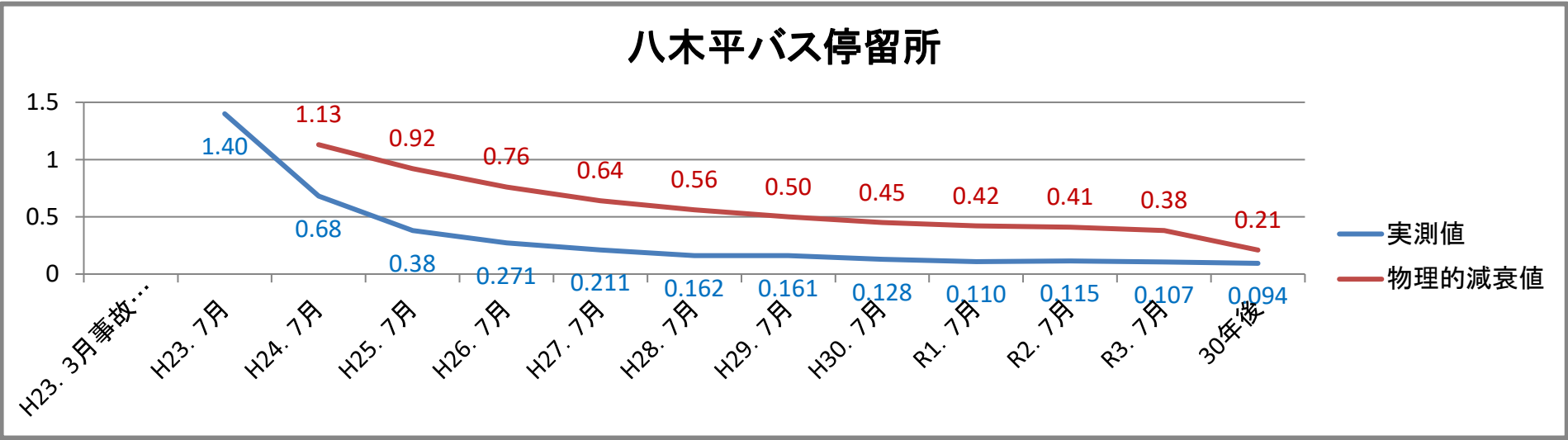
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
（参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと）

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

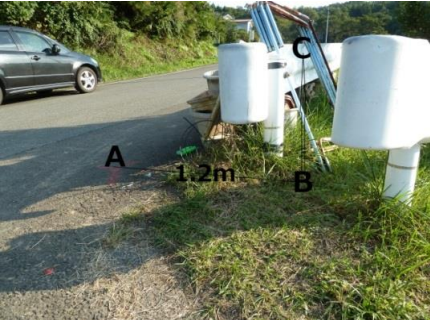
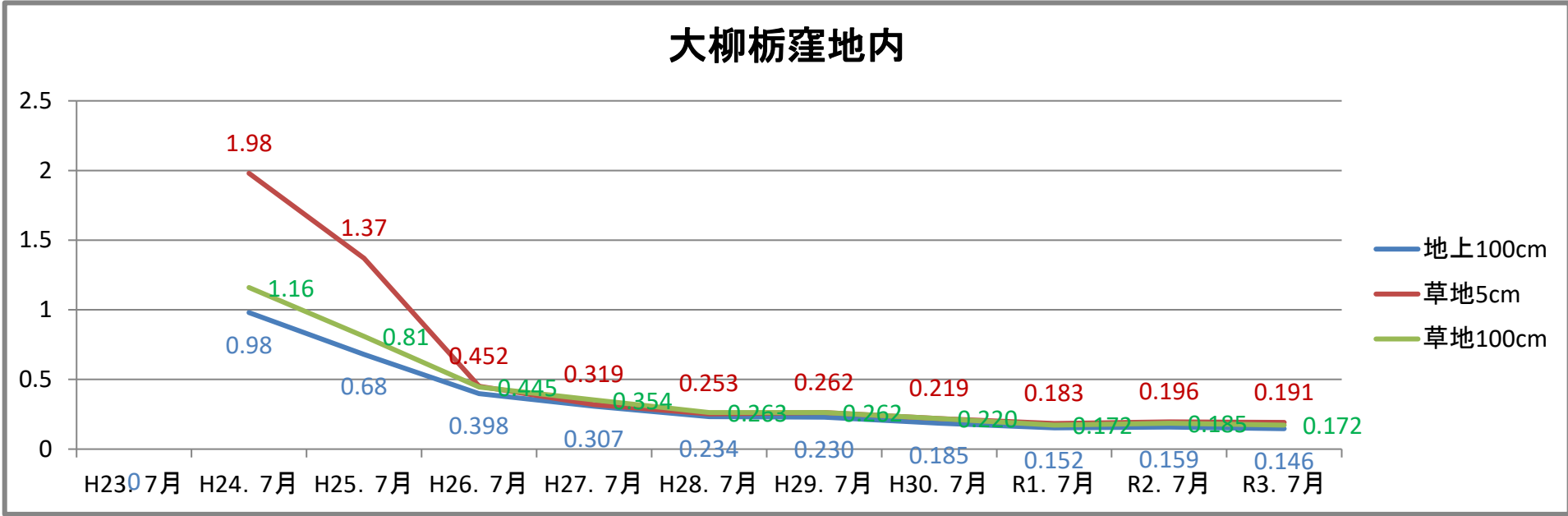
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.110	0.120	0.128	0.126	0.126	0.128	0.126

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.123	0.119	0.120	0.116	0.113	0.115	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
大柳析窪地内	地上100cm	－	0.98	0.68	0.398	0.307	0.234	0.230	0.185	0.152	0.159	0.146
	草地5cm	－	1.98	1.37	0.452	0.319	0.253	0.262	0.219	0.183	0.196	0.191
	草地100cm	－	1.16	0.81	0.445	0.354	0.263	0.262	0.220	0.172	0.185	0.172



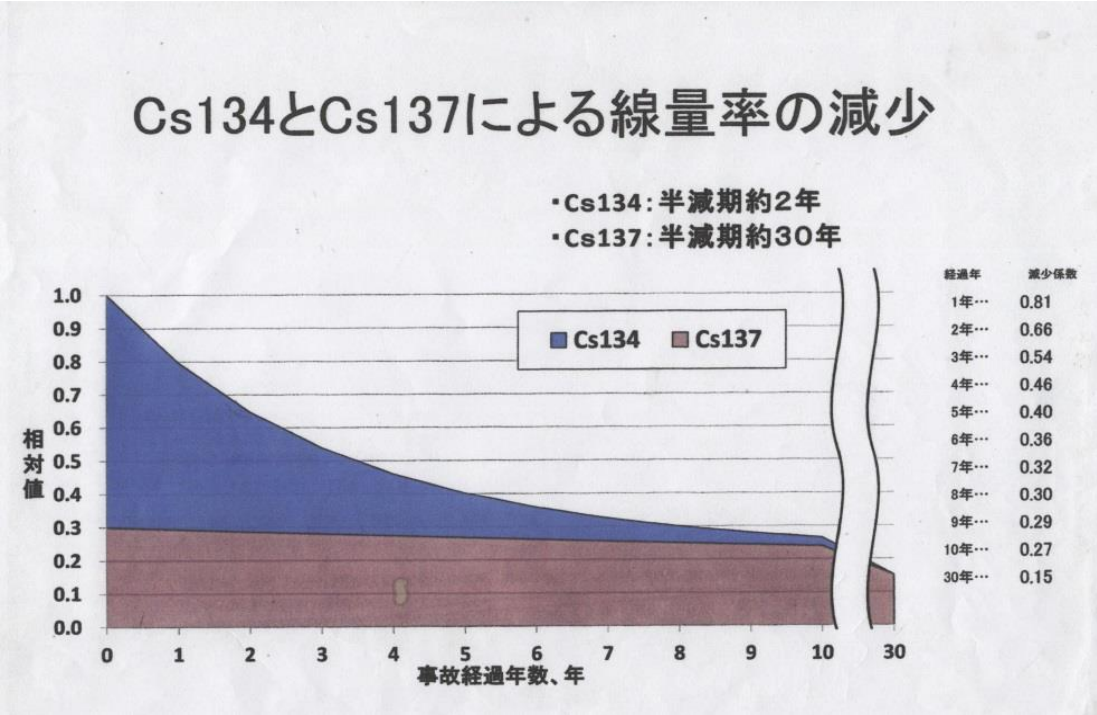
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	85%	H26. 1月道路洗浄
B	草地5cm	90%	H26. 1月除染
C	草地100cm	85%	

24年5月から測定を開始する。定点測定地点は、傾斜のある舗装路面である。草地は定点に接続する路肩である。地形が窪地で、天候による影響を受けやすい地点である。

26年1月に周辺の除染が行われて線量が大きく低下した。以後、3地点共同じ傾向で減少している。線量も殆ど差のない数値で推移している。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

大柳柵窪地内		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値			0.98	0.68	0.398	0.307	0.234	0.230	0.185	0.152	0.159	0.146	0.128
	物理的減衰値				0.56	0.48	0.41	0.37	0.33	0.31	0.30	0.29	0.28	0.15



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

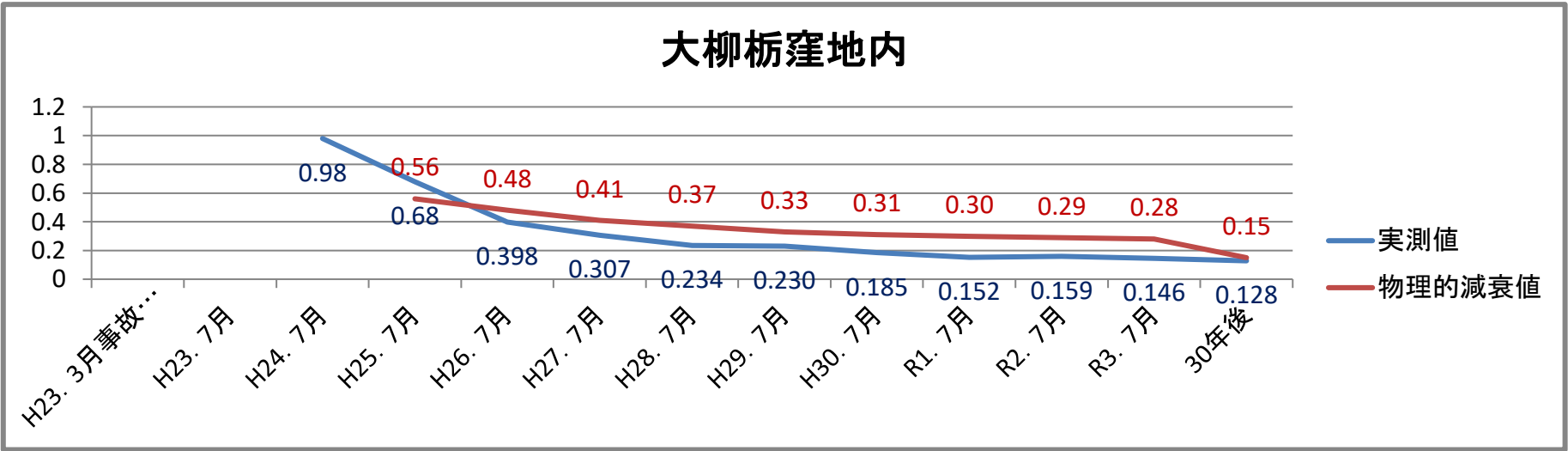
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

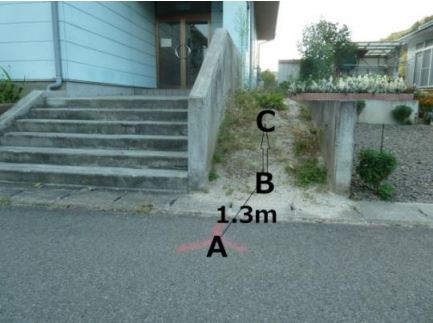
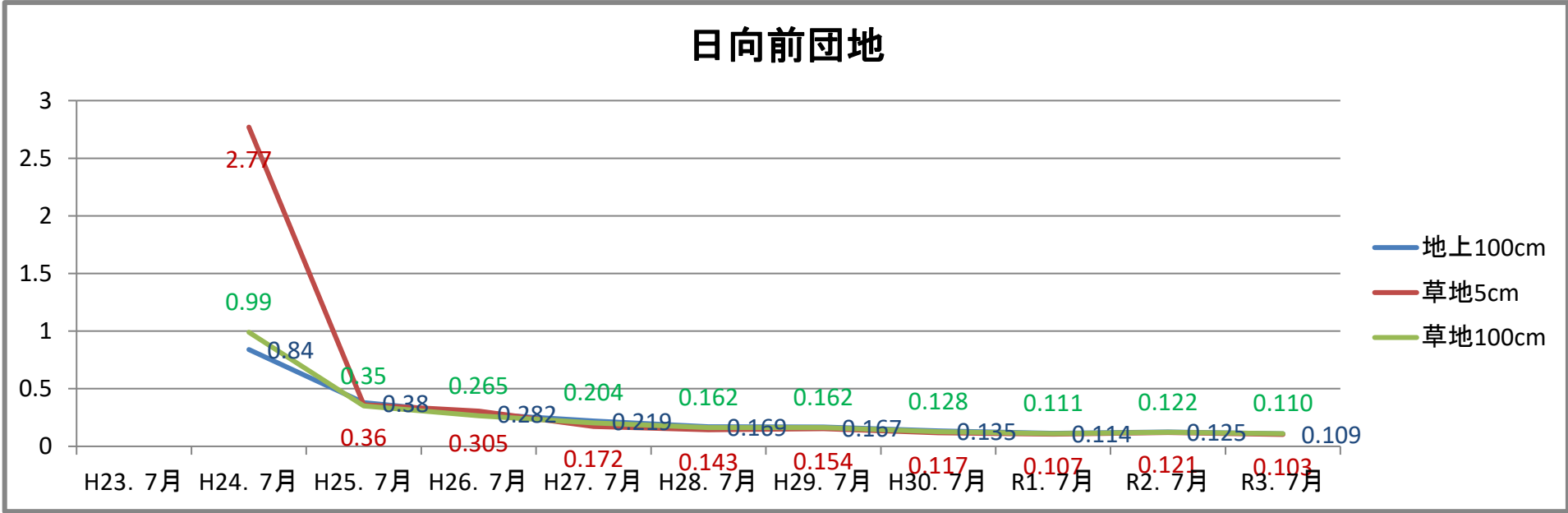
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.152	0.17	0.177	0.172	0.175	0.175	0.173

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.167	0.163	0.163	0.166	0.161	0.159	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
日向前団地	地上100cm		0.84	0.38	0.282	0.219	0.169	0.167	0.135	0.114	0.125	0.109
	草地5cm		2.77	0.36	0.305	0.172	0.143	0.154	0.117	0.107	0.121	0.103
	草地100cm		0.99	0.35	0.265	0.204	0.162	0.162	0.128	0.111	0.122	0.110



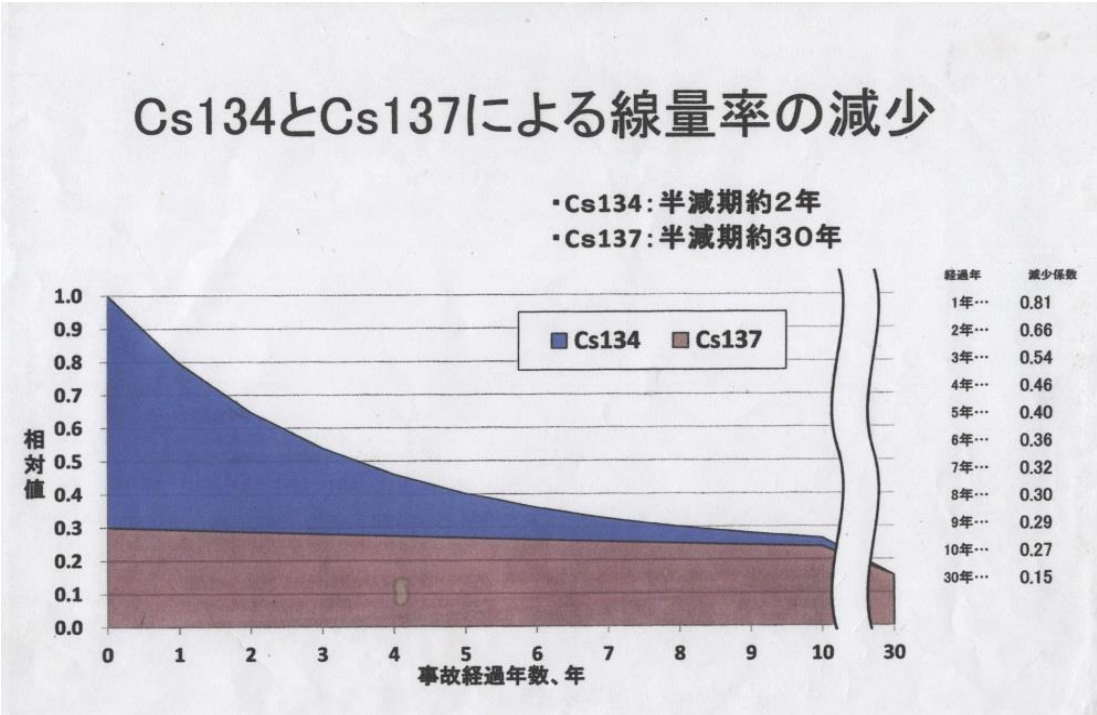
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	87%	H24. 11月除染
B	草地5cm	96%	H24. 11月除染、表土入替
C	草地100cm	89%	

※A、B、C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、団地の集会所前のコンクリート舗装の道路上で、住民の要望が強く、24年5月より測定を開始した地点である。草地が特に高かったが、24年11月に除染・表土入替で大きく減少して、以後3地点共ほぼ同じ数値で推移している。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

日向前団地		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値			0.84	0.38	0.282	0.219	0.169	0.167	0.135	0.114	0.125	0.109	0.095
	物理的減衰値				0.55	0.45	0.39	0.34	0.30	0.27	0.25	0.24	0.23	0.13



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

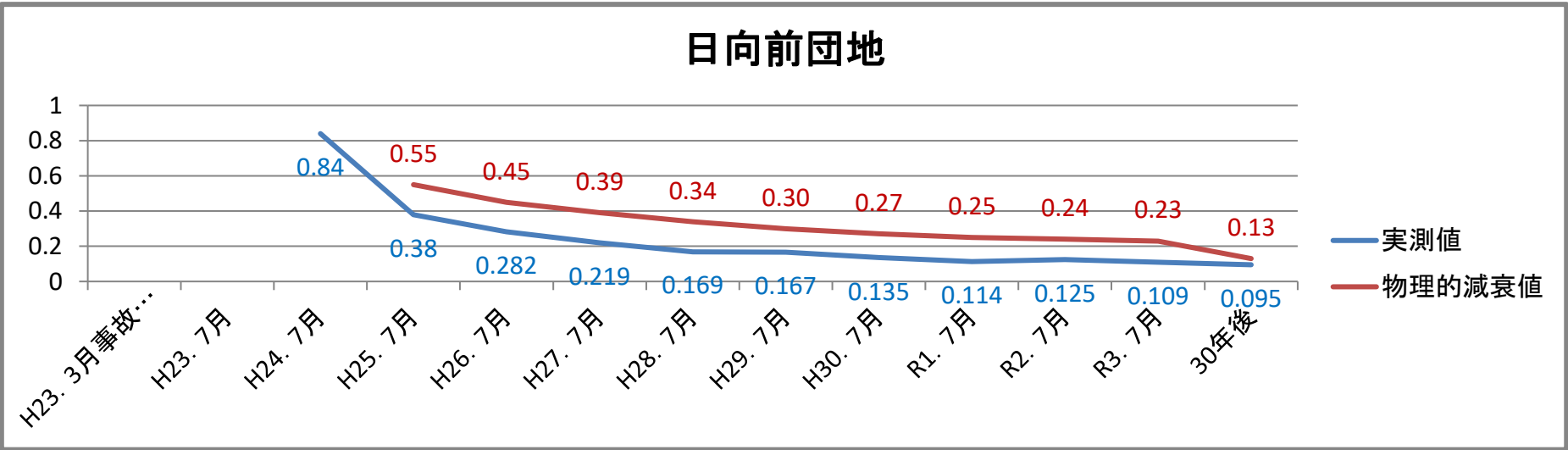
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

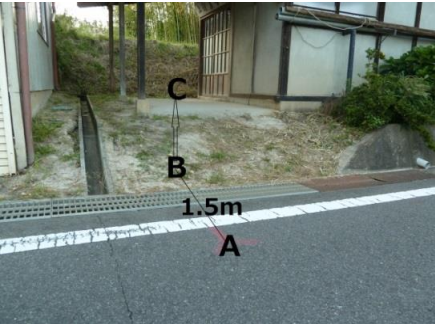
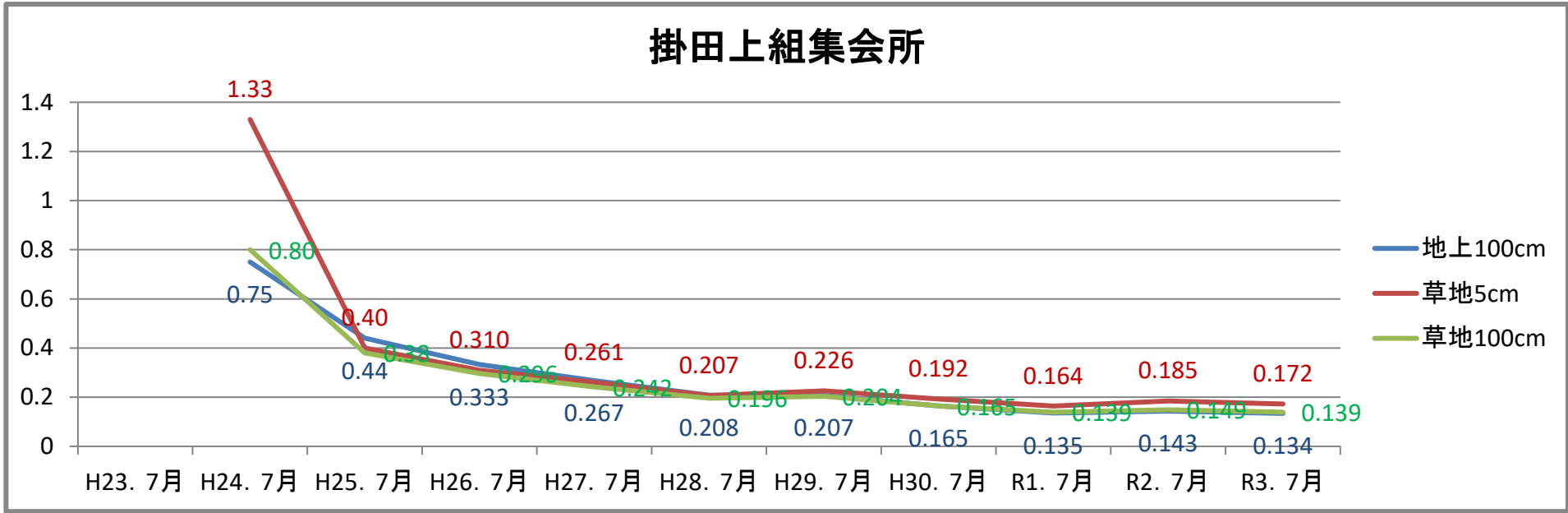
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.114	0.125	0.131	0.129	0.127	0.131	0.132

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.127	0.126	0.124	0.124	0.121	0.125	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
掛田上組集会所	地上100cm		0.75	0.44	0.333	0.267	0.208	0.207	0.165	0.135	0.143	0.134
	草地5cm		1.33	0.40	0.310	0.261	0.207	0.226	0.192	0.164	0.185	0.172
	草地100cm		0.80	0.38	0.296	0.242	0.196	0.204	0.165	0.139	0.149	0.139



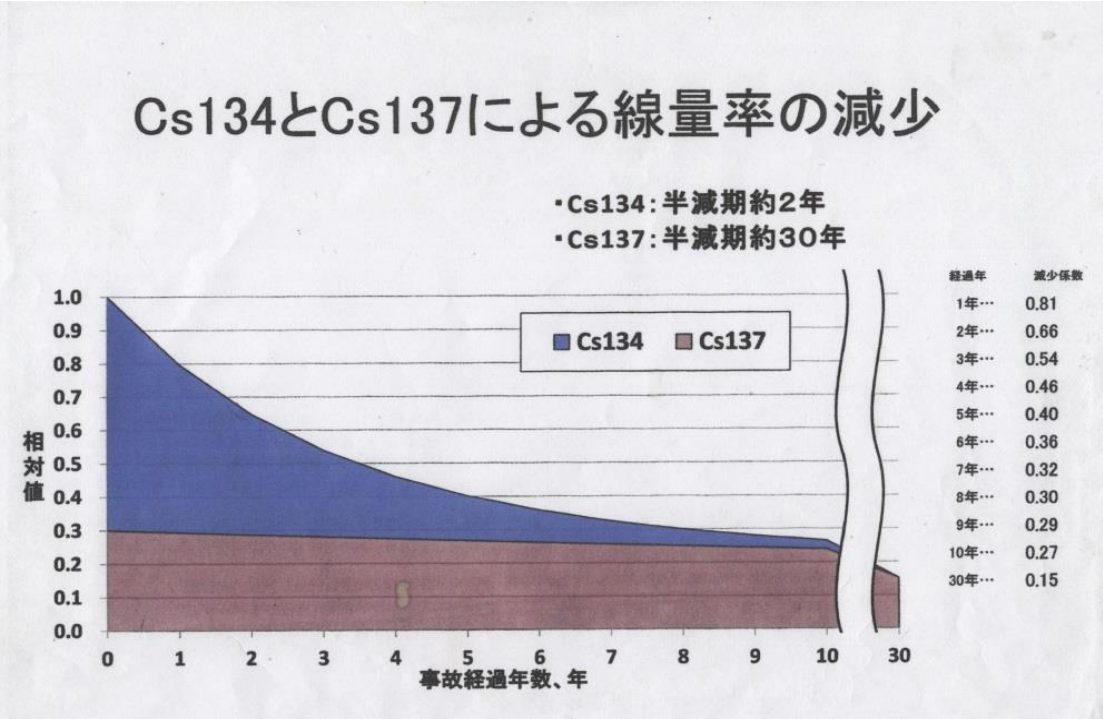
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	82%	H25. 1月除染
B	草地5cm	87%	H25. 1月除染、表土入替
C	草地100cm	83%	

※A、B、C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、集会所前の緩やかな傾斜の舗装道路上で、草地は道路に接続した地点である。草地5cmは測定開始時は線量が高かったが、25年1月の除染により大きく減少して、以後3地点共ほぼ同じ数値で減少を続けている。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

掛田上組集会所		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値			0.75	0.44	0.333	0.267	0.208	0.207	0.165	0.135	0.143	0.134	0.117
	物理的減衰値				0.49	0.40	0.34	0.30	0.27	0.24	0.22	0.21	0.20	0.11



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

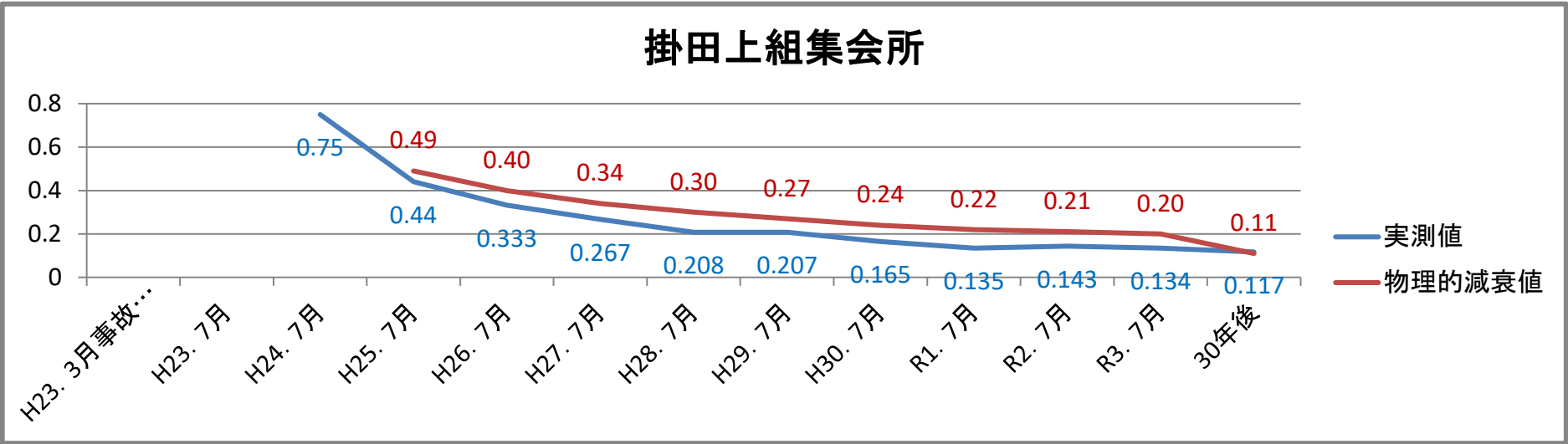
○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

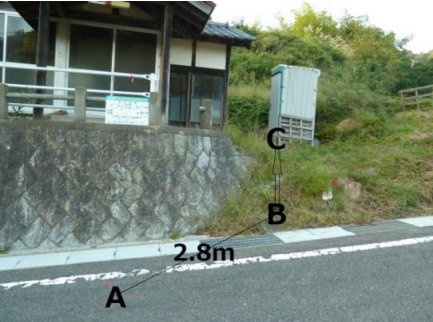
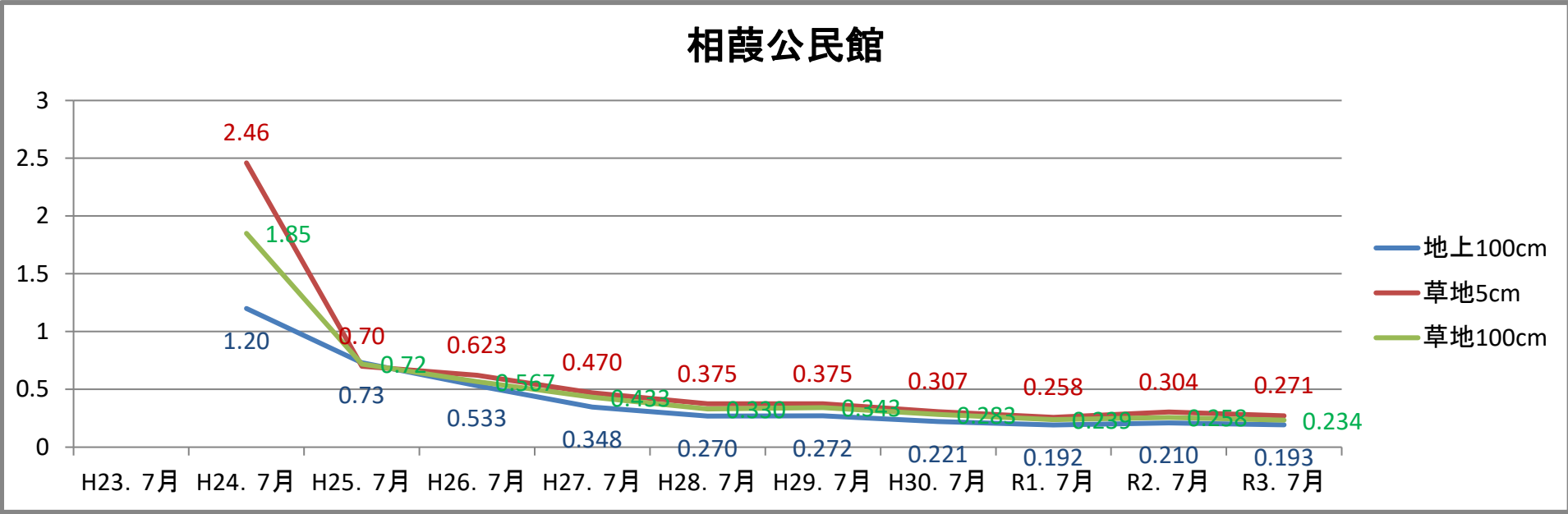
	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.135	0.150	0.156	0.154	0.157	0.157	0.159

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.152	0.151	0.146	0.148	0.142	0.143	



伊達市環境放射線モニタリング10年間の線量の推移

		H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月
相葭公民館	地上100cm		1.20	0.73	0.533	0.348	0.270	0.272	0.221	0.192	0.210	0.193
	草地5cm		2.46	0.70	0.623	0.470	0.375	0.375	0.307	0.258	0.304	0.271
	草地100cm		1.85	0.72	0.567	0.433	0.330	0.343	0.283	0.239	0.258	0.234



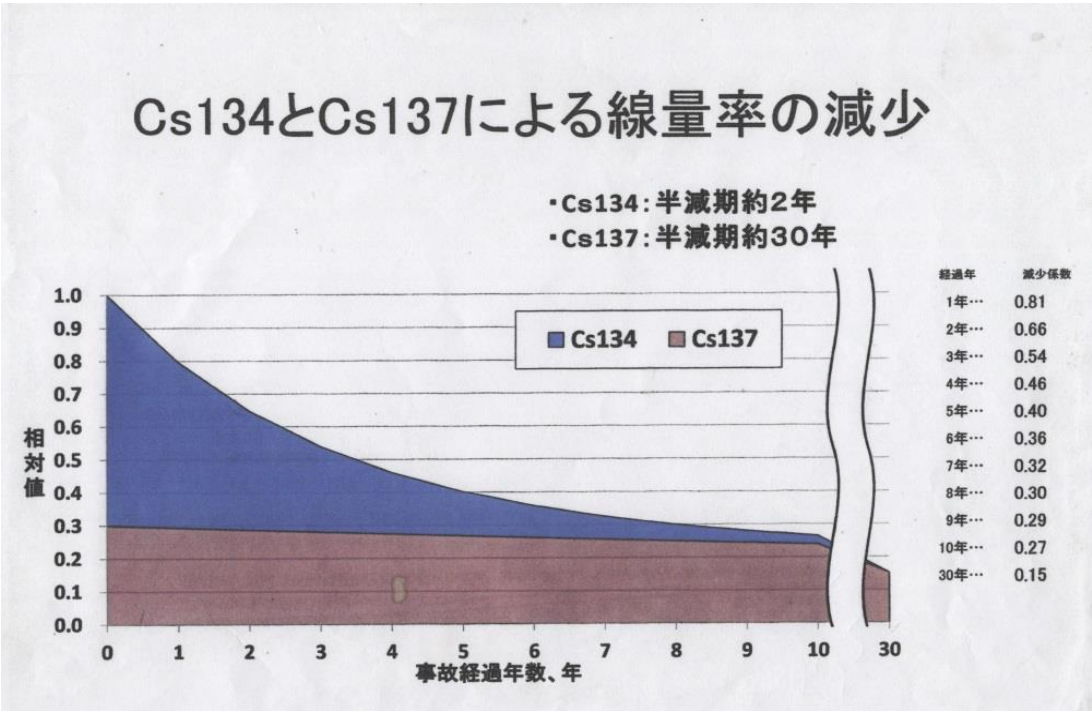
	測定地点	減少率	備考
A	地上100cm(定点)	84%	H24. 10月除染・H26. 10月道路舗装工事
B	草地5cm	89%	H24. 10月除染、表土入替
C	草地100cm	87%	

※A、B、C地点は平成24年7月からの減少率

定点は、集会所前の舗装道路上で、以前は県で測定していた地点で、24年4月から市が引き継いだ。風や降雨、積雪で線量の変動幅が大きかったが、除染により線量が大きく低下してからはその変動幅も少なくなった。草地は、この路面に接するゆるやかな土手の下方である。

伊達市環境放射線実測値と物理的減衰値の推移

相葭公民館		H23. 3月事故発生	H23. 7月	H24. 7月	H25. 7月	H26. 7月	H27. 7月	H28. 7月	H29. 7月	H30. 7月	R1. 7月	R2. 7月	R3. 7月	30年後
	実測値			1.20	0.73	0.533	0.348	0.270	0.272	0.221	0.192	0.210	0.193	0.169
	物理的減衰値				0.79	0.65	0.55	0.48	0.43	0.38	0.36	0.35	0.32	0.18



○物理的減衰値(理論値)の起点は測定開始した23年7月とした。

	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年
減少率	14.3%	30.5%	43.2%	51.5%	57.8%	62.1%	66.3%

	30年	31年	令和2年	令和3年	30年後
減少率	68.4%	69.5%	70.6%	71.6%	85.0%

○30年後の実測値は、R3年7月の実測値から測定地の状況が変わらない事を前提条件に自然減少数値を差し引いた数値とした。

○令和2年7月の線量が令和元年7月の線量より高くなっている。これは、令和元年8月に測定器の交換があり、以後0.02 μ Sv位線量が高く出て2ヶ月間前月対比で線量が増加したことが原因と考えられる。相談センターにて比較検討したところ、測定器の誤差範囲内とのことで測定を続行する。
(参考資料「測定器交換による線量数値の比較」参照のこと)

※R1. 7月からR2. 7月までの線量の推移

	R1. 7月	R1. 8月	R1. 9月	R1. 10月	R1. 11月	R1. 12月	R2. 1月
実測値	0.192	0.214	0.225	0.216	0.216	0.224	0.222

	R2. 2月	R2. 3月	R2. 4月	R2. 5月	R2. 6月	R2. 7月	
実測値	0.214	0.213	0.211	0.207	0.206	0.210	

